PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

08-146575

(43) Date of publication of application: 07.06.1996

(51)Int.CI.

G03C 7/38

G03C 7/00

G03C 7/00

(21)Application number: 06-305751

(71)Applicant: FUJI PHOTO FILM CO LTD

(22)Date of filing:

16.11.1994

(72)Inventor: KAWAGISHI TOSHIO

NAKAMINE TAKESHI MOTOKI MASUSHI

(54) SILVER HALIDE COLOR PHOTOSENSITIVE MATERIAL

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide a silver halide color photosensitive material forming an image having a good coloring property and a high density and excellent in the preservation stability of the image by containing a specific 1H~pyrazole [1, 5-b] [1, 2, 4] triazole coupler.

CONSTITUTION: The 1H-pyrazole [1, 5-b] [1, 2, 4] triazole coupler expressed by the formula I is contained. In the formula I, R1 indicates the hydrogen atom, halogen atom, or substituent, L1 indicates the connecting group of (n+1) valence, L2 indicates the group expressed by the formula II, X indicates the hydrogen atom, halogen atom, or the group releasable by the coupling reaction to an aromatic primary amine developing agent oxidant, and (n) indicates 1 or 2. When (n) is 2, two L2 may be the same or different. In the formula II, A1-A4 indicate -O-, -S-, -NR2-, -N(R2)CO-CON(R2)-respectively, R2 indicates the hydrogen atom, alkyl group, aryl group, or acil group, B1-B3 indicate the alkylene group or allylene group respectively, B4 indicates the alkyl group or aryl group, (a)-(g) indicate 0 or 1, and (h) indicates 1.



- CADA TO A CADA IDEA CADA TORIC CADA CONTRACT

П

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

(19)日本国特許庁 (JP) (12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-146575

(43)公開日 平成8年(1996)6月7日

(51) Int.Cl.⁶

٠,

2.

識別記号

庁内整理番号

FΙ

技術表示箇所

G03C 7/38

7/00

510

520

審査請求 未請求 請求項の数5 FD (全 58 頁)

(21)出願番号

特願平6-305751

(71)出顧人 000005201

富士写真フイルム株式会社

(22)出顧日

平成6年(1994)11月16日

神奈川県南足柄市中沼210番地

(72)発明者 川岸 俊雄

神奈川県南足柄市中招210番地 富士写真

フイルム株式会社内

(72) 発明者 中峯 猛

神奈川県南足柄市中招210番地 富士写真

フイルム株式会社内

(72)発明者 元木 益司

神奈川県南足柄市中沼210番地 富士写真

フイルム株式会社内

(54) 【発明の名称】 ハロゲン化銀カラー写真感光材料

(57)【要約】

【目的】発色性が高く、色像光堅牢性が高いハロゲン化 銀カラー写真感光材料を提供する。

【構成】以下の一般式の L_2 にヒドロキシル基を有する 1H-ピラゾロ[1, 5-b] [1, 2, 4] トリアゾ ールカプラーを含む。

【化1】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 下記一般式(I)で表される1H-ピラ ゾロ[1,5-b][1,2,4]トリアゾールカプラ 一を含有することを特徴とするハロゲン化銀カラー写真 感光材料。

一般式(I)

【化1】

 $-\{(A_1)_a, (B_1)_b, (A_2)_c, (B_2)_d, (A_3)_e, (B_3)_f, (A_4)_g, (B_4)_h\}$

(式中、 A_1 、 A_2 、 A_3 および A_4 はそれぞれ-O-, -S-, -NR $_2$ -, -N (R $_2$) CO-, -CO $N(R_2) - N(R_2) SO_2 - SO_2 N(R_2)$ $_{2}$) -, -CO $_{2}$ -, -OCO-, -N (R_{2}) CON (R_3) -, -OCON (R_2) - χ th-N (R_2) C O_2 ーを表し、 R_2 および R_3 は水素原子、アルキル 基、アリール基、アシル基、アルカンスルホニル基また はアレーンスルホニル基を表す。B、、B。およびB。 は、それぞれアルキレン基又はアリーレン基を表し、B 4 はアルキル基又はアリール基を表す。 a 、 b 、 c 、 d、e、fおよびgはOまたは1を表し、hは1を表 す。ただし、a-b=0、c-d=0、e-f=0であ る。 L_2 で表される置換基中の R_2 、 R_3 、 B_1 、 B_2 、 B_3 又は B_4 で表される基の少なくとも1つはヒ ドロキシル基で置換されたアルキレン基もしくはアルキ ル基、又はヒドロキシル基が置換したアルキルが結合し たアリーレン基もしくはアリール基を表すが、B₄がヒ ドロキシル基が置換したアルキル基を表すとき、B₄が -O-を介してアリール基に結合することはない。)

【請求項2】 請求項1の一般式(I)で表される1H -ピラゾロ [1, 5-b] [1, 2, 4] トリアゾール カプラーが下記一般式 (III)で表されることを特徴とす る請求項1記載のハロゲン化銀カラー写真感光材料。 一般式(III)

【化2】

(式中、 R_1 、 L_2 およびRは講求項1の R_1 、 L_2 お よびXと同じ意味の基を表し、 R_4 、 R_5 、 R_6 および R_7 は水素原子、ハロゲン原子、ヒドロキシル基、アル キル基又はアリール基を表し、pは0、1または2を表 す。)

 $(式中、<math>R_1$ は水素原子、ハロゲン原子又は置換基を表 し、 L_1 は (n+1) 価の連結基を表し、 L_2 は下記一 般式(II)で表される基を表し、Xは水素原子、ハロゲ ン原子又は芳香族第一級アミン現像主薬の酸化体とのカ ップリング反応により離脱しうる基を表す。 n は1 又は 2を表す。nが2のとき、2個のL。は同じでも、異な っていてもよい。) 一般式(II)

【請求項3】 請求項1の一般式(I)で表される1H -ピラゾロ [1, 5-b] [1, 2, 4] トリアゾール カプラーが下記一般式(IV)で表されることを特徴とす る請求項1記載のハロゲン化銀カラー写真感光材料。 一般式 (IV)

【化3】

(式中、R₁、L₂、nおよびXIIII のR₁、L $_{2}$ 、 $_{
m N}$ および $_{
m X}$ と同じ意味を表し、 $_{
m R}_{
m 8}$ はベンゼン環に 置換可能な基を表し、qはO、1、2または3を表 す。)

【請求項4】 請求項2の一般式 (III)で表される1H -ピラゾロ[1, 5-b] [1, 2, 4] トリアゾール カプラーが下記一般式(V)で表されることを特徴とす る請求項2記載のハロゲン化銀カラー写真感光材料。 一般式 (V)

【化4】

(式中、R₁、R₄ K5R₅R₇ R₆、R₇、pおよびXは 請求項2のR₁ 、R₄ 、R₅ 、R₆ 、R₇ 、pおよびX と同じ意味の基を表し、L3 は下記一般式 (VI) で表さ れる基を表し、 A_5 は-CO-または $-SO_2$ -を表 し、 R_9 および R_{10} は水素原子又は下記一般式 (VII) で 表される基を表す。ただし、 R_9 および R_{10} が同時に水 素原子を表すことはない。)

一般式 (VI)

 $- (A_1)_a (B_1)_b (A_2)_c (B_2)_d (A_3)_e (B_3)_f -$

(式中、 A_1 、 A_2 および A_3 は、それぞれ-O-、-S-、 $-NR_2-$ 、-N (R_2) CO-、-CON (R_2) -N (R_2) SO_2- 、 $-SO_2$ N (R_2) -N (R_2) -N

一般式 (VII)

 $- \{C (R_{11}) (R_{12}) \}_{r} -OH$

(式中、 R_{11} および R_{12} は、それぞれ水素原子、アルキル基又は少なくとも1つのヒドロキシル基で置換されたアルキル基を表し、rは1~4の整数を表す。)

【請求項5】 請求項3の一般式(IV) で表される1H ーピラゾロ[1,5-b][1,2,4]トリアゾール -(A)(R)(A)

(式中、 A_1 、 A_2 および A_3 は、それぞれ-O-、-S-、 $-NR_2-$ 、-N (R_2) CO-、-CON (R_2) - 、-N (R_2) SO_2- 、 $-SO_2$ N (R_2) - 、 $-CO_2-$ 、-OCO- 、-N (R_2) CON (R_3) - 、-OCON (R_2) - 又は-N (R_2) CO_2- を表し、 R_2 および R_3 は水素原子、アルキル基、アリール基、アシル基、アルカンスルホニル基またはアレーンスルホニル基を表す。 B_1 、 B_2 および B_3 は、それぞれアルキレン基又はアリーレン基を表す。 A_1 、 A_2 なん 。 A_3 と、 A_4 で、 A_4 、 A_5 の、 A_5 で、 A_5 の、 A_5 の、 A_5 で、 A_5 の、 A_5 の $A_$

一般式(VII)

 $- \{C (R_{11}) (R_{12}) \}_{r} -OH$

(式中、 R_{11} および R_{12} は、それぞれ水素原子、アルキル基又は少なくとも1つのヒドロキシル基で置換されたアルキル基を表し、rは $1\sim4$ の整数を表す。)

【発明の詳細な説明】

[0001]

【産業上の利用分野】本発明はハロゲン化銀カラー写真感光材料に関し、さらに詳しくは1H-ピラゾロ[1,5-b][1,2,4]トリアゾール系マゼンタカプラーを含有し、色再現性と発色性およびマゼンタ色素の光堅牢性を改良したハロゲン化銀カラー写真感光材料に関する。

[0002]

【従来の技術】ハロゲン化銀カラー写真感光材料においては、芳香族第1級アミン現像主薬の酸化体とカップリング反応して、イエロー、マゼンタ、及びシアンにそれぞれ発色するカプラーを含有するものが一般的である。このうち、マゼンタカプラーとしては米国特許第4,540,654号等に記載された1H-ピラゾロ[1,5

カプラーが下記一般式 (VIII) で表されることを特徴とする請求項1記載のハロゲン化銀カラー写真感光材料。 一般式 (VIII)

【化5】

$-(A_1)_a (B_1)_b (A_2)_c (B_2)_d (A_3)_e (B_3)_f -$

-b] [1, 2, 4] トリアゾールマゼンタカプラーが 不要吸収の少ないマゼンタ色素を生成する点で好ましい ことが知られている。しかしながら、該特許に記載され た1H-ピラゾロ[1, 5-b][1, 2, 4]トリア ゾールマゼンタカプラーの具体的化合物はハロゲン化銀 カラー写真感光材料に導入した場合の、発色性や色像保 存性などに問題があり、それらの問題点を解決するため $k1H-l^2 = l^2 = [1, 5-b]$ [1, 2, 4] hyr ゾールの2位及び6位の置換基に種々の工夫を加えたカ プラーが提案された。特に、特公平3-80296、特 開昭61-65248、特公平4-3860、同5-3 9293、同5-40892号、特開平6-22252 9号及び同6-222532号等に記載された1H-ピ ラゾロ[1,5-b][1,2,4]トリアゾールカプ ラーによって発色性の改良がなされたが、未だ十分とは 言い難く、また生成するマゼンタ色画像の光堅牢性をさ らに向上することが望まれていた。特に、カラー反転フ ィルムおよびカラーネガフィルムにおいては鮮鋭度を向 上するために感光層をできるだけ薄層化することが望ま しく、退色防止剤を併用しなくても十分な光堅牢性を有 するカプラーの開発が望まれていた。

[0003]

【発明が解決しようとする課題】従って、本発明の目的の第一は、発色性が高いハロゲン化銀カラー写真感光材料を提供することである。さらに、本発明の目的の第二は、色像光堅牢性が高いハロゲン化銀カラー写真感光材料を提供することである。

[0004]

【課題を解決するための手段】前記の課題は、下記一般 式 (I) で表される1H-ピラゾロ [1, 5-b] [1, 2, 4] トリアゾールカプラーを含有することを 特徴とするハロゲン化銀カラー写真感光材料によって達成された。

一般式(I)

[0005]

【化6】

- {(A_1)_a (B_1)_b (A_2)_c (B_2)_d (A_3)_e (B_3)_f (A_4)_g (B_4)_h }

(式中、 A_1 、 A_2 、 A_3 および A_4 はそれぞれ-O-, -S-, -NR₂-, -N(R₂)CO-, -CO $N(R_2) - N(R_2) SO_2 - SO_2 N(R_2)$ $_{2}$) -, -CO $_{2}$ -, -OCO-, -N (R $_{2}$) CON (R_3) -, -OCON (R_2) -Xt-N (R_2) C O_2 -を表し、 R_2 および R_3 は水素原子、アルキル 基、アリール基、アシル基、アルカンスルホニル基また はアレーンスルホニル基を表す。B₁、B₂およびB₃ は、それぞれアルキレン基又はアリーレン基を表し、B 4 はアルキル基又はアリール基を表す。 a、b、c、 d、e、fおよびgは0または1を表し、hは1を表 す。ただし、a-b=0、c-d=0、e-f=0であ る。 L_2 で表される置換基中の R_2 、 R_3 、 B_1 、 B_2 、 B_3 又は B_4 で表される基の少なくとも1つはヒ ドロキシル基で置換されたアルキレン基もしくはアルキ ル基、又はヒドロキシル基が置換したアルキルが結合し たアリーレン基もしくはアリール基を表すが、Baがヒ ドロキシル基が置換したアルキル基を表すとき、Baが -O-を介してアリール基に結合することはない。)

明する。一般式(I)において、R,は水素原子、ハロ ゲン原子(例えば、フッ素原子、塩素原子、臭素原 子)、アルキル基(好ましくは炭素数1~32の、直鎖 もしくは分岐鎖のアルキル基で、例えば、メチル、エチ ル、プロピル、イソプロピル、ブチル、 t ーブチル、1 -オクチル、トリデシル)、シクロアルキル基(好まし くは炭素数3~8のシクロアルキル基で、例えば、シク ロプロピル、シクロペンチル、シクロヘキシル、1-ノ ルボルニル、1-アダマンチル)、アルケニル基 (好ま しくは炭素数2~32のアルケニル基で、例えば、ビニ ル、アリル、3-ブテン-1-イル)、アリール基(好 ましくは炭素数6から32のアリール基で、例えば、フ エニル、1ーナフチル、2ーナフチル)、ヘテロ環基 (好ましくは炭素数1から32の、5から8員環のヘテ ロ環基で、例えば、2ーチエニル、4ーピリジル、2ー フリル、2-ピリミジニル、1-ピリジル、2-ベンソ

チアゾリル、1ーイミダゾリル、1ーピラゾリル、ベン

ゾトリアゾールー2ーイル)、シアノ基、シリル基(好

ましくは炭素数3~32のシリル基で、例えば、トリメ

【0007】以下に本発明のカプラーについて詳しく説

【0006】(式中、 R_1 は水素原子、ハロゲン原子または置換基を表し、 L_1 は (n+1) 価の連結基を表し、 L_2 は下記一般式 (II) で表される基を表し、X は水素原子、ハロゲン原子又は芳香族第一級アミン現像主薬の酸化体とのカップリング反応により離脱しうる基を表す。nは1又は2を表す。<math>nが2のとき、2個の L_2 は同じでも、異なっていてもよい。)

チルシリル、トリエチルシリル、トシブチルシリル、 t ーブチルジメチルシリル、 t ーヘキシルジメチルシリル 、 t ーヘキシルジメチルシリル 、 t とドロキシル基、ニトロ基、アルコキシ基(好ましくは炭素数 $1 \sim 3$ 2 のアルコキシ基で、例えば、メトキシ、エトキシ、1 ーブトキシ、2 ーブトキシ、イソプロポキシ、 t ーブトキシ、ドデシルオキシ)、シクロアルキルオキシ基(好ましくは炭素数 3 から 8 のシクロアルキルオキシ基で、例えば、シクロペンチルオキシ、シクロヘキシルオキシ)、アリールオキシ基(好ましくは炭素数 $6 \sim 3$ 2 のアリールオキシ基で、例えば、フェノキシ、2 ーナフトキシ)、

【0008】ヘテロ環オキシ基(好ましくは炭素数1~ 32のヘテロ環オキシ基で、例えば、1-フェニルテト ラゾールー5ーオキシ、2ーテトラヒドロピラニルオキ シ、2-フリルオキシ)、シリルオキシ基(好ましくは 炭素数1~32のシリルオキシ基で、例えば、トリメチ ルシリルオキシ、t-ブチルジメチルシリルオキシ、ジ フェニルメチルシリルオキシ)、アシルオキシ基(好ま しくは炭素数2~32のアシルオキシ基で、例えば、ア セトキシ、ピバロイルオキシ、ベンゾイルオキシ、ドデ カノイルオキシ)、アルコキシカルボニルオキシ基(好 ましくは炭素数2~32のアルコキシカルボニルオキシ 基で、例えば、エトキシカルボニルオキシ、 tーブトキ シカルボニルオキシ)、シクロアルキルオキシカルボニ ルオキシ (好ましくは炭素数4~9のシクロアルキルオ キシカルボニルオキシ基で、例えば、シクロヘキシルオ キシカルボニルオキシ)、アリールオキシカルボニルオ キシ基(好ましくは炭素数7~32のアリールオキシカ ルボニルオキシ基で、例えば、フェノキシカルボニルオ キシ)、カルバモイルオキシ基(好ましくは炭素数1~ 32のカルバモイルオキシ基で、例えば、N, N-ジメ チルカルバモイルオキシ、

【0009】Nーブチルカルバモイルオキシ)、スルファモイルオキシ基(好ましくは炭素数1~32のスルファモイルオキシ基で、例えば、N,Nージエチルスルファモイルオキシ、Nープロピルスルファモイルオキシ)、アルカンスルホニルオキシ基(好ましくは炭素数1~32のアルカンカルホニルオキシ基で、例えば、メタンスルホニルオキシ、ヘキサデカンスルホニルオキ

シ)、アレーンスルホニルオキシ(好ましくは炭素数6~32のアレーンスルホニルオキシ基で、例えば、ベンゼンスルホニルオキシ)、アシル基(好ましくは炭素数1~32のアシル基で、例えば、ホルミル、アセチル、ピバロイル、ベンゾイル、テトラデカノイル)、アルコキシカルボニル基(好ましくは炭素数2~32のアルコキシカルボニル基で、例えば、メトキシカルボニル、エトキシカルボニル、オクタデシルオキシカルボニル)、シクロアルキルオキシカルボニル基(好ましくは炭素数2~32のシクロアルキルオキシカルボニル基で、例えば、

٠,

C .

【0010】シクロヘキシルオキシカルボニル)、アリ ールオキシカルボニル基(好ましくは炭素数7~32の アリールオキシカルボニル基で、例えば、フェノキシカ ルボニル)、カルバモイル基(好ましくは炭素数1~3 2のカルバモイル基で、例えば、カルバモイル、N, N ージブチルカルバモイル、N-エチル-N-オクチルカ ルバモイル、N-プロピルカルバモイル)、アミノ基 (好ましくは炭素数32以下のアミノ基で、例えば、ア ミノ、メチルアミノ、N, N-ジオクチルアミノ、テト ラデシルアミノ、オクタデシルアミノ)、アニリノ基 (好ましくは炭素数6~32のアニリノ基で、例えば、 アニリノ、Nーメチルアニリノ)、ヘテロ環アミノ基 (好ましくは炭素数1~32のヘテロ環アミノ基で、例 えば、4-ピリジルアミノ)、カルボンアミド基(好ま しくは炭素数2~32のカルボンアミド基で、例えば、 アセトアミド、ベンズアミド、テトラデカンアミド)、 ウレイド基(好ましくは炭素数1~32のウレイド基 で、例えば、ウレイド、N, N-ジメチルウレイド、N -フェニルウレイド)、イミド基(好ましくは炭素数1 0以下のイミド基で、例えば、N-スクシンイミド、N フタルイミド)、アルコキシカルボニルアミノ基(好 ましくは炭素数2~32のアルコキシカルボニルアミノ 基で、

【0011】例えば、メトキシカルボニルアミノ、エト キシカルボニルアミノ、tーブトキシカルボニルアミ ノ、オクタデシルオキシカルボニルアミノ)、アリール オキシカルボニルアミノ基(好ましくは炭素数7~32 のアリールオキシカルボニルアミノ基で、例えば、フェ ノキシカルボニルアミノ)、スルホンアミド基(好まし くは炭素数1~32のスルホンアミド基で、例えば、メ タンスルホンアミド、ブタンスルホンアミド、ベンゼン スルホンアミド、ヘキサデカンスルホンアミド)、スル ファモイルアミノ基(好ましくは炭素数1~32のスル ファモイルアミノ基で、例えば、N,N-ジプロピルス ルファモイルアミノ、N-エチル-N-ドデシルスルフ ァモイルアミノ)、アゾ基(好ましくは炭素数1~32 のアゾ基で、例えば、フェニルアゾ)、アルキルチオ基 (好ましくは炭素数1~32のアルキルチオ基で、例え ば、エチルチオ、オクチルチオ)、アリールチオ基(好 ましくは炭素数 6~32のアリールチオ基で、例えば、 フェニルチオ)、

【0012】ヘテロ環チオ基(好ましくは炭素数1~3 2のヘテロ環チオ基で、例えば、2-ベンゾチアソリル チオ、2-ピリジルチオ、1-フェニルテトラゾリルチ オ)、アルキルスルフィニル基(好ましくは炭素数1~ 32のアルキルスルフィニル基で、例えば、ドデカンス ルフィニル)、アレーンスルフィニル(好ましくは炭素 数6~32のアレーンスルフィニル基で、例えば、ベン ゼンスルフィニル)、アルカンスルホニル基(好ましく は炭素数1~32のアルカンスルホニル基で、例えば、 メタンスルホニル、オクタンスルホニル)、アレーンス ルホニル基(好ましくは炭素数6~32のアレーンスル ホニル基で、例えば、ベンゼンスルホニル、1-ナフタ レンスルホニル)、スルファモイル基(好ましくは炭素 数32以下のスルファモイル基で、例えば、スルファモ イル、N、Nージプロピルスルファモイル、N-エチル - N - ドデシルスルファモイル)、スルホ基、ホスホニ ル基(好ましくは炭素数1~32のホスホニル基で、例 えば、フェノキシホスホニル、オクチルオキシホスホニ ル、フェニルホスホニル)を表す。

【0013】R、で表される基はさらに置換基を有して いてもよく、好ましい置換基としてはハロゲン原子、ア ルキル基、シクロアルキル基、アルケニル基、アリール 基、ヘテロ環基、シアノ基、シリル基、ヒドロキシル 基、カルボキシル基、ニトロ基、アルコキシ基、アリー ルオキシ基、ヘテロ環オキシ基、シリルオキシ基、アシ ルオキシ基、アルコキシカルボニルオキシ基、シクロア ルキルオキシカルボニルオキシ基、アリールオキシカル ボニルオキシ基、カルバモイルオキシ基、スルファモイ ルオキシ基、アルカンスルホニルオキシ基、アレーンス ルホニルオキシ基、アシル基、アルコキシカルボニル 基、シクロアルキルオキシカルボニル基、アリールオキ シカルボニル基、カルバモイル基、アミノ基、アニリノ 基、ヘテロ環アミノ基、カルボンアミド基、アルコキシ カルボニルアミノ基、アリールオキシカルボニルアミノ 基、ウレイド基、スルホンアミド基、スルファモイルア ミノ基、イミド基、アルキルチオ基、アリールチオ基、 ヘテロ環チオ基、スルフィニル基、スルホ基、アルカン スルホニル基、アレーンスルホニル基、スルファモイル 基、ホスホニル基を挙げることができ、これらの基の好 ましい炭素数及び具体例はR、で表される基の説明で挙 げたものと同じである。

【0014】Xは水素原子、ハロゲン原子又は現像主薬酸化体との反応により離脱可能な基を表す。詳しくは、離脱可能な基はアルコキシ基、アリールオキシ基、アシルオキシ基、カルバモイルオキシ基、スルホニルオキシ基、カルボンアミド基、スルホンアミド基、カルバモイルアミノ基、ヘテロ環基、アリールアゾ基、アルキルチオ基、アリールチオ基、ヘテロ環チオ基などを表す。ハ

ロゲン原子および離脱可能な基の好ましい範囲及び具体例は R_1 で表される基の説明で挙げたものと同じである。Xはこれら以外にアルデヒドまたはケトンを介して2分子の4当量カプラーが結合したビス形カプラーの場合もあり、またXは現像促進剤、現像抑制剤、脱銀促進剤またはロイコ色素などの写真有用基もしくはそれらの前駆体であってもよい。

【0015】L₁は(n+1)価の連結基を表す。詳し

式中、 A_1 、 A_2 、 A_3 および A_4 はそれぞれ-O-、 -S-, $-NR_2-$, $-N(R_2)CO-$, -CON $(R_2) - (-N)(R_2) SO_2 - (-SO_2)$ $(R_2) - CO_2 - OCO - N(R_2) C$ ON (R_3) -、-OCON (R_2) -又は-N $(R_2) CO_2 - \delta 表 U CR_2 およびR_3 は水素原子、$ アルキル基、アリール基、アシル基、アルカンスルホニ ル基またはアレーンスルホニル基を表し、これらの基の 好ましい炭素数及び具体例はR」で表される基の説明で 挙げたアルキル基、アリール基、アシル基、アルカンス ルホニル基及びアレーンスルホニル基と同じである。B $_1$ 、 B_2 および B_3 は、それぞれアルキレン基(好まし くは主鎖の炭素数1~10、置換基も含めた炭素数が1 ~30のアルキレン基で、例えば、メチレン、エチレ ン、プロピレン、ブチレン)又はアリーレン基(好まし くは炭素数6~30のアリーレン基で、例えば、1,2 ーフェニレン、1, 3ーフェニレン、1, 4ーフェニレ ン、1,2-ナフチレン、1,4-ナフチレン)を表 す。B₄はアルキル基又はアリール基表し、これらのア ルキル基及びアリール基の好ましい炭素数及び具体例は R₁で表される基の説明で挙げたアルキル基およびアリ ール基と同じである。R₂ 、R₃ 、B₁ 、B₂ 、B₃ 及 びB。で表される基はさらに置換基を有していてもよ く、好ましい置換基は、 R_1 で表される基の好ましい置 換基として挙げたものと同じである。 R_2 、 R_3 、 B_1 、 B_2 、 B_3 又は B_4 で表される基の少なくとも1 つはヒドロキシル基で置換されたアルキレン基もしくは アルキル基、又はヒドロキシル基が置換したアルキルが 結合したアリーレン基もしくはアリール基を表すが、B 4 がヒドロキシル基が置換したアルキル基を表すとき、

 くは、炭素数1~20のアルカン、アルケンもしくはアルキン、または炭素数6~20のアレーンの水素原子を(n+1)個取り除いて結合手にした(n+1)価の連結基を表す。

【0016】 L_2 は下記一般式(II)で表される基を表す。

一般式(II)

 $-\{(A_1)_a(B_1)_b(A_2)_c(B_2)_d(A_3)_e(B_3)_f(A_4)_g(B_4)_h\}$

 B_4 が-O-を介してアリール基に結合することはない。 a、b、c、d、e、f およびg は0または1 を表し、hは1を表す。ただし、a-b=0、c-d=0、e-f=0である。 R_2 、 R_3 、 B_1 、 B_2 、 B_3 又は B_4 で表される基はその置換基に $-CONHR_{21}$ 又は $-SO_2$ NHR_{21} を有してもよい。ここで、 R_{21} は水素原子又は炭素数 $1\sim4$ のアルキル基を表す。

【0017】一般式(III)において、 R_1 、 L_2 および Xは一般式(I)における R_1 、 L_2 および Xと同じ意味の基を表す。 R_4 、 R_5 、 R_6 および R_7 は水素原子、ハロゲン原子(例えば、フッ素原子、塩素原子、臭素原子)、ヒドロキシル基、アルキル基(好ましくは炭素数 $1\sim20$ の、直鎖もしくは分岐鎖のアルキル基で、例えば、メチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、tーブチル)又はアリール基(好ましくは炭素数 6から 20のアリール基で、例えば、フェニル、1ーナフチル、2ーナフチル)を表し、pは 0、1 または 2を表す。

【0018】一般式 (IV) において、 R_1 、 L_2 、nおよびXは一般式 (I) における R_1 、 L_2 、nおよびXと同じ意味の基を表す。 R_8 で表されるベンゼン環に置換可能な基は R_1 で表される基の説明で挙げた水素原子以外の原子又は置換基と同じ意味を表し、qは0、1、2または3を表す。

【0019】一般式 (V) において、 R_1 、 R_4 、 R_5 、 R_6 、 R_7 、pおよびXは一般式 (III)で説明したの R_1 、 R_4 、 R_5 、 R_6 、 R_7 、pおよびXと同じ意味を表す。 L_3 は下記一般式 (VI) で表される基を表す。

一般式 (VI)

 $-(A_1)_a (B_1)_b (A_2)_c (B_2)_d (A_3)_e (B_3)_f -$

ニル基及びアレーンスルホニル基と同じである。 B_1 、 B_2 および B_3 は、それぞれアルキレン基(好ましくは 主鎖の炭素数 $1\sim10$ 、 置換基も含めた炭素数が $1\sim30$ のアルキレン基で、例えば、メチレン、エチレン、プロピレン、プチレン)又はアリーレン基(好ましくは炭素数 $6\sim30$ のアリーレン基で、例えば、1 、2-フェニレン、1 、3-フェニレン、1 、4-フェニレン、1 、2-ナフチレン、1 、4-ナフチレン)、を表す。 R_2 、 R_3 、 B_1 、 B_2 及び B_3 で表される基はさらに 置換基を有していてもよく、好ましい置換基は、 R_1 で

表される基の好ましい置換基として挙げたものと同じである。 a、b、c、d、e及び f は 0 または 1 を表す。ただし、a - b = 0、c - d = 0、e - f = 0 とする。 A_5 は - CO - または - SO $_2$ - を表し、 R_9 および R_{10} は + 本表原子又は下記一般式(VII)で表される基を表す。ただし、 R_9 および R_{10} が 同時に + 本条原子を表すことはない。

一般式 (VII)

 $- \{C (R_{11}) (R_{12}) \}_{r} -OH$

一般式(VII)において、 R_{11} および R_{12} は、それぞれ水素原子又はアルキル基(好ましくは炭素数 $1\sim10$ の、直鎖もしくは分岐鎖のアルキル基で、例えば、メチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、tーブチルで、ヒドロキシル基を置換基に有していてもよい)を表し、rは $1\sim4$ の整数を表す。

【0020】一般式 (VIII) において、 R_1 、n、X、

 R_8 及び q は、それぞれ一般式(IV)で説明した R_1 、 n、 X、 R_8 及び q と同じ意味を表す。 L_3 は先に説明した一般式(VI)と同じ意味の基を表す。 A_5 は一C O 一または一S O $_2$ 一を表し、 R_9 および R_{10} は水素原子又は先に説明した一般式(VII)で表される基と同じ意味の基を表す。 ただし、 R_9 および R_{10} が同時に水素原子を表すことはない。

【0021】以下に本発明の化合物の好ましい範囲について説明する。 R_1 は、アルキル基、アリール基、アルコキシ基、アリールオキシ基、アルキルチオ基、アリールチオ基、ウレイド基、オキシカルボニルアミノ基、又はアミド基が好ましい。 R_1 で表される基の好ましい具体例としては以下に示すものが挙げられる。

【0022】 【化7】

$$CH_{3}-, C_{2}H_{5}-, (CH_{3})_{2}CH-, (CH_{3})_{3}C-, (CH_{3})_{3}CCH_{2}-, C_{2}H_{5}C-, CH_{3}$$

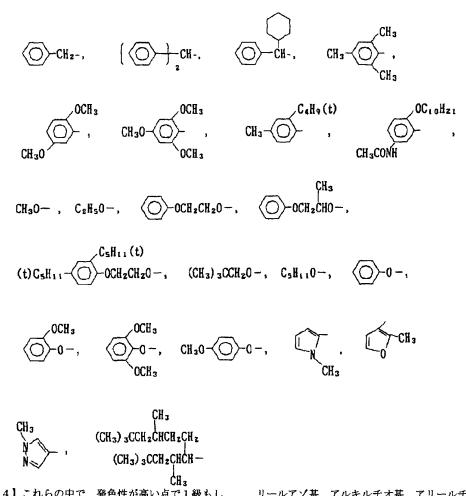
$$C_{2}H_{5} \qquad CH_{3} \qquad CH_{2} \qquad CH_{3}$$

$$CH_{3} \qquad CH_{2} \qquad CH_{3} \qquad CH_{3}$$

$$CH_{3} \qquad CH_{3} \qquad CH_{3} \qquad CH_{3} \qquad CH_{3}$$

$$CH_{3} \qquad CH_{3} \qquad CH_{3} \qquad CH_{3} \qquad CH_{3}$$

$$CH_{3} \qquad CH_{4} \qquad CH_{3} \qquad CH_{3$$



【0024】これらの中で、発色性が高い点で1級もし くは2級のアルキル基、アルコキシ基、およびアリール オキシ基が好ましく、色像の光及び熱に対する堅牢性の 点で3級アルキル基又はアリールオキシ基が特に好まし い。R,で表される基としてはアルキル基が最も好まし く、3級アルキル基がさらに好ましい。

【0025】Xは、ハロゲン原子、アリールオキシ基、 カルバモイルオキシ基、アシルアミノ基、複素環基、ア

リールアゾ基、アルキルチオ基、アリールチオ基又は複 素環チオ基が好ましく、ハロゲン原子、アリールオキシ 基、複素環基、アルキルチオ基、アリールチオ基又は複 素環チオ基がさらに好ましく、塩素原子又はアリールオ キシ基が最も好ましい。Xで表される基の好ましい具体 例としては以下に示すものが挙げられる。

[0026]

【化9】

$$-C1 , -F , -Br , -I , -SCH_{z}CO_{z}H , -S - \bigcirc ,$$

$$-S - SCH_{z}CO_{z}H , -S - \bigcirc ,$$

$$-S - CO_{z}CH_{3} , -S - \bigcirc ,$$

以上の基である。 【0029】一般式(I)で表される化合物のうち、一般式(III)または一般式(IV)で表される化合物が好ましく、一般式(V)または一般式(VIII)で表される化

合物がさらに好ましい。

が好ましく、詳しくは、L」またはL。で表される基の

少なくとも一つが炭素数8以上、好ましくは炭素数12

【0030】一般式 (III)および一般式 (V) で表される化合物において、 R_4 、 R_5 、 R_6 および R_7 は水素

原子またはアルキル基が好ましく、pは1または2が好ましい。 R_4 および R_5 の少なくとも1つがアルキル基であることが好ましく、pは1であることが最も好ましい。

【0031】一般式(IV)および一般式(VIII)で表される化合物において、nは1であることが好ましく、R はアルキル基、アルコキシ基、アリールオキシ基、アミノ基及びアニリノ基が好ましく、アルキル基及びアルコキシ基がさらに好ましい。qは0、1又は2が好ましく、0又は1がさらに好ましい。 L_2 および R_8 で表される基の置換位置は、ピラゾロトリアゾール核に対してメタ位またはパラ位が好ましい。

【0032】一般式 (V) および一般式 (VIII) で表される化合物の L_3 {一般式 (VI) で表される基} において、 A_1 、 A_2 および A_3 は-O-、-S-、-N (R_2) CO-、-CON (R_2) -CON (R_2) -

フェニレン基、1, 3-フェニレン基、<math>1, 4-フェニレン基が好ましい。

【0033】一般式 (V) および一般式 (VIII) で表される化合物において、 A_5 は-CO 一であることがより好ましい。一般式 (V) および一般式 (VIII) で表される化合物において、 R_9 および/または R_{10} が一般式 (VII)で表される基を表すとき、 R_{11} および R_{12} は、水素原子又は炭素数 $1\sim3$ のアルキル基であることが好ましく、r は 1、2 または 3 が好ましく、2 または 3 がさらに好ましい。

【0034】一般式(I)で表される化合物の各置換基 の組み合わせとしては、R,がアルキル基、アルコキシ 基またはアリールオキシ基であり、Xがハロゲン原子、 アリールオキシ基、複素環基、アルキルチオ基又はアリ ールチオ基であり、L₁が2価の連結基であり、一般式 (II) で表される基の A_1 、 A_2 、 A_3 および A_4 がー O-, -S-, -N (R₂) <math>CO-, -CON (R₂)-、-N(R₂)SO₂-、-SO₂N(R₂)-又は $-N(R_2)CO_2$ -であり、 R_2 および R_3 が水素原 子またはアルキル基であり、 B_1 、 B_2 および B_3 が、 主鎖の炭素数が1~3で、総炭素数が1~20のアルキ レン基、1,2-フェニレン基、1,3-フェニレン 基、1、4-フェニレン基であり、B4 がアルキル基又 はフェニル基であり、nが1である場合が好ましい。さ らに好ましくは、 R_1 がアルキル基であり、Xが塩素原 子又はアリールオキシ基であり、L₁ が 2 価の連結基で あり、一般式 (II) で表される基の A_1 、 A_2 、 A_3 お よびA₄ が-O-、-N(R₂)CO-又は-N (R_2) SO₂ -であり、 R_2 および R_3 が水素原子で あり、 B_1 、 B_2 および B_3 が、主鎖の炭素数が $1\sim3$ で、総炭素数が1~20のアルキレン基、1,2-フェ ニレン基、1,3-フェニレン基または1,4-フェニ レン基であり、B₄ がアルキル基又はフェニル基であ り、nが1である。

【0035】一般式 (III)で表される化合物の各置換基 の組み合わせとしては、R,がアルキル基、アルコキシ 基またはアリールオキシ基であり、Xがハロゲン原子、 アリールオキシ基、複素環基、アルキルチオ基又はアリ ールチオ基であり、 R_4 、 R_5 、 R_6 および R_7 が水素 原子またはアルキル基であり、pが1または2であり、 一般式 (II) で表される基の A_1 、 A_2 、 A_3 およびA $_4$ 15 -O- $_{\cdot}$ -S- $_{\cdot}$ -N (R_2) CO- $_{\cdot}$ -CON $(R_2) - N (R_2) SO_2 - SO_2 N$ (R_2) -又は-N (R_2) CO_2 -であり、 R_2 およ びRaが水素原子またはアルキル基であり、B、、Ba およびB。が、主鎖の炭素数が1~3で、総炭素数が1 ~20のアルキレン基、1,2-フェニレン基、1,3 -フェニレン基、1, 4-フェニレン基であり、B₄ が アルキル基又はフェニル基である場合が好ましい。さら に好ましくは、R、がアルキル基であり、Xが塩素原子 又はアリールオキシ基であり、 R_4 および R_5 の少なくとも1つがアルキル基であり、-般式(II)で表される基の A_1 、 A_2 、 A_3 および A_4 が-O-、-N(R_2)CO-又は-N(R_2) SO_2 -であり、 R_2 および R_3 が水素原子であり、 B_1 、 B_2 および B_3 が、主鎖の炭素数が $1\sim3$ で、総炭素数が $1\sim2$ 0のアルキレン基、1、2-フェニレン基、1、3-フェニレン基または1、4-フェニレン基であり、 B_4 がアルキル基又はフェニル基である。

【0036】一般式(IV)で表される化合物の各置換基 の組み合わせとしては、R、がアルキル基、アルコキシ 基またはアリールオキシ基であり、Xがハロゲン原子、 アリールオキシ基、複素環基、アルキルチオ基又はアリ ールチオ基であり、R₈ がアルキル基、アルコキシ基、 アリールオキシ基、アミノ基又はアニリノ基であり、q が0、1又は2であり、nが1であり、一般式(II)で 表される基の A_1 、 A_2 、 A_3 および A_4 が-O-、-S-, -N (R_2) CO-, -CON (R_2) -, -N(R₂) SO₂ -、-SO₂ N (R₂) -又は-N (R $_2$) CO_2 -であり、 R_2 および R_3 が水素原子または アルキル基であり、 B_1 、 B_2 および B_3 が、主鎖の炭 素数が1~3で、総炭素数が1~20のアルキレン基、 1, 2-フェニレン基、1, 3-フェニレン基、1, 4 ーフェニレン基であり、B₄ がアルキル基又はフェニル 基である場合が好ましい。さらに好ましくは、 R_1 がア ルキル基であり、Xが塩素原子又はアリールオキシ基で あり、R_Bがアルキル基またはアルコキシ基であり、q が0又は1であり、nが1であり、一般式(II)で表さ れる基のA₁、A₂、A₃およびA₄が一〇一、一N (R_2) CO-又は-N (R_2) SO $_2$ -であり、 R_2 および R_3 が水素原子であり、 B_1 、 B_2 およびB3が、主鎖の炭素数が1~3で、総炭素数が1~20の アルキレン基、1,2-フェニレン基、1,3-フェニ レン基または1, $4-フェニレン基であり、<math>B_4$ がアル キル基又はフェニル基である。

【0037】一般式(V)で表される化合物の各置換基の組み合わせとしては、 R_1 がアルキル基、アルコキシ基またはアリールオキシ基であり、X がハロゲン原子、アリールオキシ基、複素環基、アルキルチオ基又はアリールチオ基であり、 R_4 、 R_5 、 R_6 および R_7 が水素原子またはアルキル基であり、 R_4 が、 R_5 、 R_6 および R_7 が水素原子またはアルキル基であり、 R_2) R_2 CO-、 R_2) R_2) R_3 が、 R_4 、 R_5 、 R_6 および R_7 が水素原子またはアルキル基であり、 R_2) R_2 と R_3 が、 R_2 に、 R_3 が、 R_4 が、 R_5 か、 R_5 が、 R_5 か、 R_5 か、 R_5 か、 R_5 か、 R_5 か、 R_5 か、 R_5 か R_5 か、 R_5 か R_5 か、 R_5 か、 R_5 か R_5 か

基を表すときの R_{11} および R_{12} が、水素原子又は炭素数 $1\sim3$ のアルキル基であり、rが1、2または3である場合である。さらに好ましくは、 R_1 がアルキル基であり、 R_4 および R_5 の少なくとも1つがアルキル基であり、-般式 (VI)で表される基の A_1 、 A_2 及び A_3 が-O-、-N (R_2) CO-または-N (R_2) SO_2 -であり、 R_2 および R_3 が水素原子であり、 B_1 、 B_2 および B_3 が、主鎖の炭素数が $1\sim3$ で、総炭素数が $1\sim2$ 0のアルキレン基、1, 2-フェニレン基であり、 A_5 が -C O-であり、 R_9 および/または R_{10} が一般式 (VII)で表される基を表すときの R_{11} および R_{12} が、水素原子又は炭素数 $1\sim3$ のヒドロキシル基を置換基に有しても良いアルキル基であり、rが2または3である。

【0038】一般式 (VIII) で表される化合物の各置換基の組み合わせとしては、 R_1 がアルキル基、アルコキシ基またはアリールオキシ基であり、Xがハロゲン原子、アリールオキシ基、複素環基、アルキル基、アルコキシ基、アリールオキシ基、アミノ基又はアニリノ基であり、qが0、1又は2であり、nが1であり、-般式 (VI) で表される基の A_1 、 A_2 および A_3 が-O-、-S-、-N (R_2) SO $_2$ - 、-SO $_2$ N (R_2) -Xは-Xに (R_2) R_3 が水素原子またはアルキル基であり、 R_1 および R_3 が水素原子またはアルキル基であり、 R_1 および R_3 が主鎖の

炭素数が1~3で、総炭素数が1~20のアルキレン 基、1,2-フェニレン基、1,3-フェニレン基、 1, 4-フェニレン基であり、A₅ が-CO-であり、 R。および/またはRioが一般式 (VII)で表される基を 表すときのR、」およびR、₂が、水素原子又は炭素数1~ 3のアルキル基であり、rが1、2または3である場合 である。さらに好ましくは、 R_1 がアルキル基であり、 Xが塩素原子又はアリールオキシ基であり、Rg がアル キル基またはアルコキシ基であり、qが0又は1であ り、nが1であり、一般式(VI)で表される基のA₁、 A₂及びA₃ が-O-、-N(R₂)CO-又は-N (R₂) SO₂ -であり、R₂およびR₃ が水素原子で あり、 B_1 、 B_2 及び B_3 が主鎖の炭素数が $1 \sim 3$ で、 総炭素数が1~20のアルキレン基、1,2-フェニレ ン基、1、3-フェニレン基または1、4-フェニレン 基であり、A₅ が一CO一であり、R₉ および/または R₁₀が一般式 (VII)で表される基を表すときのR₁₁およ びRっが、水素原子又はヒドロキシル基を置換基に有し ても良い炭素数1~3のアルキル基であり、rが2また は3である。

【0039】以下に本発明に用いることができる一般式 (I)で表されるピラゾロトリアゾールマゼンタカプラ 一の具体例を示すが、本発明はこれらによって限定され るものではない。

[0040]

【化11】

M-1

CH₃

CH

NH

QC₁

2H

CHCH₂NHSO₂

M-3 $(t) C_4H_9 C_1$ $NH C_1 zH_2 z z z$ $QCHCONH (CH_2) zOH$ $C_4H_9 (t)$

M-4

(CH₃)₂CH

N

O

CHCH₂NHCCHCH₂CONHCH₂CH₂OH

CH₃(H₁, 1, 2)

CH₃(H₂, 1, 2)

[0041]

$$M-7$$

$$(t)C_4H_9 S \longrightarrow S$$

$$NHCOC_4H_9(t)$$

$$NH CONH(CH_2)_3OH$$

$$OCH_3 C_9H_{17}(t)$$

M-8

M-9 (CH₃) ₂CH Cl NH OC₁₈H₃₇ CH₃ -CCH₂NHSO₂ OC₁₈H₃₇

 $\begin{array}{c} M-1\ 0 \\ \\ NH \\ \\ CHCH_2NHSO_2 \\ \\ CH_3 \\ \end{array} \begin{array}{c} C_{1\,2}H_{2\,5} \\ \\ OCHCONH\ (CH_2)\ _2O\ (CH_2)\ _2OH \\ \\ C_{4}H_{9}\ (t) \\ \end{array}$

 $M-1\ 1$ $(CH_3)_2CH \longrightarrow 0 \longrightarrow -CO_2CH_3$ $NH \qquad CONH(CH_2)_2OH$ $CH_2CH_2NHCO \longrightarrow NHSO_2C_{1'2}H_{25}$

 $\begin{array}{c} M-1\ 2 \\ \\ NH \\ \\ CHCH_2NHCOCH-0 \\ \\ CH_3 \\ \\ CH_3 \\ \\ CH_2^2H_{25} \\ \\ (4L\ 1\ 4)^{H_25} \end{array}$

M – 1 4
$$(CH_3)_2CH \xrightarrow{C1} C1$$
NHSO 2 — CH₃
CONHCHCH₂OH

$$M-15$$

$$(t)C_4H_9$$

$$NH$$

$$OCHCONHCH_2CH_2OH$$

$$(CH_2)_3-O-O-NHSO_2-O-NHSO_2$$

$$C_8H_{17}(t)$$

$$\begin{array}{c} M-1\ 6 \\ \\ CH_3 \\ N+\\ N+\\ CHCH_2NHCOCH-0 \\ \\ CH_3 \\ CH_3 \\ CH_2 \\ CH_{25} \end{array}$$

$$M-18 \\ (CH_3)_z CH \\ V \\ NH \\ CHCH_2 NHSO_2 \\ CH_3 \\ C_4 H_9(t)$$

[0045]

M - 21

M-22

$$\begin{array}{c|c} \text{CCH}_3\text{)} \text{ }_2\text{CH} & \text{C1} \\ & \text{NH} & \text{C1}_1\text{ }_2\text{H}_2\text{5} \\ & \text{OCHCONH}_2 \\ & \text{OCH}_3 & \text{CON}\left(\text{CH}_2\text{CH}_2\text{OH}\right)_2 \end{array}$$

M-23

M-24

[0046]

$$M - 25$$

M - 26

M - 27

$$M - 28$$

【0047】本発明の一般式(I)で表されるカプラーのハロゲン化銀カラー写真感光材料への添加量は $3\times10^{-5}\sim3\times10^{-3}$ mol/ m^2 であり、好ましくは $3\times10^{-4}\sim2\times10^{-3}$ mol/ m^2 であり、 $1\times10^{-4}\sim1.5\times10^{-3}$ mol/ m^2 がさらに好ましい。

【0048】本発明のピラゾロトリアゾールカプラーの 出発原料である5ーアミノー1Hーピラゾール化合物 は、特開平4-66573号、同4-66574号に記載の方法により合成が可能である。本発明のピラゾロト リアゾールカプラーの骨格部分は、米国特許第4,54 CH₃ 0,654号、特公平4-79350号、同4-793 51号および特開平5-186470号等の明細書に記載された方法で合成することができる。

【0049】以下に本発明の一般式 (I) で表される化 合物の具体的合成例を示す。

合成例1(例示化合物M-2の合成)

例示化合物M-2は、下記スキームに従い合成することができた。

[0050]

【化18】

【0051】中間体(A-3)の合成

欧州公開特許第0571959A号に記載された方法により合成することができる中間体(A-1)27.8g (0.200mol)をアセトニトリル150mlに加え、さらに2-メチルー3-フタルイミドプロピオンイミノ酸メチルエステル塩酸塩 {中間体(A-2)、メタクリロニトリルとフタルイミドを塩基の存在下に反応して得られる2-メチルー3-フタルイミドプロピオニトリルをPinner法に処すことにより合成できる}67.9g (0.240mol)を加えて、室温で6時間攪拌した。析出した

結晶を濾取し、(B-5)トリルで洗浄した後、風乾し、 65.5g(収率84%)の中間体(A-3)を得た。 中間体(A-4)の合成

塩酸ヒドロキシルアミン14.7g(0.211mol)をメタノール150mlに加え、室温で攪拌して溶解した。これにナトリウムメトキシドの28%メタノール溶液42.4ml(0.211mol)を加えて5分間攪拌し、析出した沈澱を濾過して除いた。この濾液に中間体(A-3)68.8g(0.176mol)を加え、室温で4時間攪拌の後、2日放置した。この反応液を減圧下に容積が約1/3になるま

で濃縮し、酢酸エチル400ml、水400mlおよび 濃塩酸10mlを加えて抽出した。水層を酢酸エチル2 00mlでさらに抽出し、有機層を合わせて飽和食塩水 で洗浄し、無水硫酸マグネシウム上で乾燥した。減圧下 に濃縮し中間体(A-4)の粗生成物を橙色の油状物と して得た。さらに精製することなく次工程に用いた。

【0052】中間体(A-5)の合成

中間体 (A-4) 47.2 g (0.128mo1)をアセトニトリル450m1に溶解し、室温で攪拌した。これに、四塩化炭素50.8 m 1 (0.512mo1)を加え、さらにトリフェニルホスフィン50.4 g (0.192mo1)を加えて、室温で5時間攪拌した。一夜放置後、減圧下に溶媒を留去し、残査に少量のアセトニトリルを加えて溶解し、さらに酢酸エチル400m1と水400m1を加えて抽出した。有機層を飽和重曹水300m1、ついで飽和食塩水300m1で洗浄した後、無水硫酸マグネシウム上で乾燥した。減圧下に濃縮後、シリカゲルカラムクロマトグラフィー(溶離液:クロロホルム/メタノールの混合溶媒)で精製し、37.2 g (収率82.7%)の中間体(A-5)を得た。

【0053】中間体(A-6)の合成

中間体(A-5)38.6g(0.110mol)をイソプロピルアルコール150mlに溶解し、攪拌しながら加熱還流した。これに、抱水ヒドラジン5.87ml(0.121mol)を20分間かけて滴下し、さらに3時間加熱還流した。氷水で冷却し、析出している不溶物を濾過して除いた。濾液を減圧下に濃縮し、中間体(A-6)を含む赤色の油状物24.8gを得た。NMRスペクトルにより純度56.7%と推定した。

【0054】中間体 (B-1) の合成

4ーヒドロキシ安息香酸エチル80.0g(0.481mol)、ブロモオクタデカン160.7g(0.482mol)及び炭酸カリウム133g(0.962mol)をN, Nージメチルホルムアミド(DMF)240ml中に加え、蒸気浴上で4時間加熱攪拌した。冷却後、反応混合物を水1.5リットル中に注ぎ、析出した結晶を濾取し、水洗した。風乾して中間体(B-1)201.4g(収率100%)を得た。

【0055】中間体(B-3)の合成

中間体 (B-1) 201. 4g(0.48lmol)をジクロロメタン1.0リットルに溶かし、氷水で冷却して攪拌した。これに、クロルスルホン酸43.2ml(0.649mol)を30分間で簡下し、さらに1.5時間攪拌した。氷水浴をはずして室温で一夜静置後、3.5時間加熱還流下、攪拌した。減圧下に濃縮し、残査に酢酸エチル1.0リットルと1N塩酸800mlを加えて抽出した。有機層を飽和食塩水と混合し、冷却して析出した結晶を濾取した。水洗した後、風乾し、中間体 (B-2) の粗生成物280gを得た。この中間体 (B-2) の粗生成物

270 gおよび水酸化カリウム135 g(2.41mol)を水 1.0リットルとエタノール0.60リットルの混合溶 媒中に加え、1.5時間蒸気浴上で加熱攪拌した。室温 で一夜静置後、攪拌しながら濃塩酸250mlをゆっく り加え、析出した結晶を濾取し、中間体(B-3)21 7.5 gを得た。

【0056】中間体(B-4)の合成

中間体 (B-3) 80.0 g (0.170mol)をトルエン400mlに加え、さらに塩化チオニル70ml (0.96mol) とDMF5滴を加えて、100~120℃のオイルバス上で3.5時間攪拌した。塩化チオニル40ml (0.55mol) を追加し、さらに3時間加熱攪拌の後、減圧下に溶媒を留去した。残査にアセトニトリル300mlを加えて晶析し、中間体 (B-4) 63.6 g (収率74%)を得た。

【0057】中間体(B-5)の合成

市販の2-アミノー2-メチルー1-プロパノール4.38g(49.1mmol)、重曹13g(0.15mol)、水100m1及び酢酸エチル200m1の混合物に、攪拌下中間体(B-4)25.0g(49.3mmol)を加え、室温で1時間攪拌した。氷水で冷却しながら、さらに1時間攪拌の後、析出した結晶を濾取し、中間体(B-5)24.4g(収率89%)を無色の結晶として得た。

【0058】例示化合物M-2の合成

中間体(A-6)5.80g(14.9mmo1)をN,Nージメチルアセトアミド(DMAC)20mlに溶かし、水浴で冷却して攪拌した。トリエチルアミン2.30ml(16.5mmo1)を加え、続いて中間体(B-5)9.20g(16.4mmo1)を加えて室温で20分間攪拌した。酢酸エチル80ml、水100ml及び濃塩酸2.0mlを加えて抽出し、有機層を飽和食塩水80mlで洗浄した。有機層にN-クロロこはく酸イミド1.89g(14.2mmo1)を加え、攪拌後20分間静置した。この酢酸エチル溶液に水100mlを加えて抽出し、飽和食塩水80mlで洗浄後、無水硫酸マグネシウム上で乾燥した。減圧下に濃縮後、残査をシリカゲルカラムクロマトグラフィー(溶離液:ヘキサン/酢酸エチルの混合溶媒)で精製し、7.93g(収率68%)の例示化合物M-2を淡黄色

7.93g(収率68%)の例示化合物M-2を換黄色 のガラス状固体として得た。

¹H NMRスペクトル (CDC1₃)

 δ (ppm) 11. 30 (brs, 1H), 8. 16 (d, 1H), 7. 79 (dd, 1H), 6. 70 (m, 2H), 5. 63 (t, 1H), 5. 11 (t, 1H), 3. 87 (m, 2H), 3. 72 (d, 2 H), 3. 4-3. 1 (m, 3H), 1. 74 (m, 2H), 1. 5-1. 2 (m, 48H), 0. 88 (t, 3H)

【0059】合成例2(例示化合物M-19の合成) 例示化合物M-19は、下記スキームに従い合成することができた。

[0060]

【化19】

【0061】中衛体 & (D-4) 市販のトルニトリルを濃硝酸でニトロ化して得られる中間体 (C-1) 50.0g(0.308mol)をメタノール270m1に加え、水浴で冷却して攪拌した。これにナトリウムメトキシドの28%メタノール溶液59.5g(0.308mol)を加えて1時間攪拌し、さらに水浴をはずして室温で4時間攪拌した。この反応混合物を冷蔵庫中で一夜静置した後、氷水で冷却して攪拌した。酢酸37g(0.617mol)を10分間で滴下し、さらに30分間攪拌した。これに欧州公開特許第177765A号に記載の方法に

よって合成できる中間体 (C5)2)39.4g(0.308mo 1)をメタノール50mlに溶かして加え、室温で4時間 攪拌して中間体 (C-3)とし、さらに塩酸ヒドロキシルアミン44.2g(0.617mo1)を加えて、40℃で4時間攪拌した。一夜放置後、減圧下にメタノールを留去し、酢酸エチル400mlと水500mlを加えて抽出した。有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウム上で乾燥し、減圧かに溶媒を留去して、中間体 (C-4)の粗生成物67.1gを赤燈色の油状物として得た。これをDMAC400mlに溶かし、氷水で冷却し

て攪拌した。N, Nージエチルアニリン49.3g(0.330mol)を加え、さらに塩化mーニトロベンゼンスルホニル51.4g(0.232mol)を加えて30分間攪拌した。氷水浴をはずして室温で1時間攪拌の後、さらにN, Nージエチルアニリン19.9g(0.133mol)を加え、室温で3時間攪拌した。反応混合物に酢酸エチル600mlと水1.5リットルを加えて抽出し、有機層を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸マグネシウム上で乾燥した。減圧下に濃縮後、アセトニトリル120mlを加えて晶析し、19.8gの中間体(C-5)を得た。

【0062】中間体 (C-6) の合成

還元鉄 2 6. 2 g (0.469mol)、塩化アンモニウム 2. 6 g (49mmol)、水 2 6 m l 及びイソプロピルアルコール 2 6 0 m l の混合物を蒸気浴上で 1 5 分間加熱還流下攪拌した。これに中間体 (C-5) 1 3. 4 g (47.0mmol)を少しずつ加え、3 0 分間加熱攪拌した。6 0 ℃程度に冷却した後、セライトを用いて濾過し、濾液を水 5 0 0 m l 中に注いで攪拌した。析出した結晶を濾取し、中間体 (C-6) 1 0. 2 9 g (収率 8 5. 8%)を淡褐色の結晶として得た。

【0063】中間体(D-2)の合成

市販の4-t-オクチルフェノール206g(1.00mol) 、炭酸カリウム207g(1.50mol) 及びDMF500 mlの混合物を蒸気浴上で加熱攪拌した。これに2-ブ ロモテトラデカン酸エチルエステル335g(1.00mol) を40分間で滴下し、2時間加熱攪拌した。さらに2-ブロモテトラデカン酸エチルエステル67.2g(0.200 mol)を加えて2時間加熱攪拌した。冷却後、ヘキサン 1. 5リットルと水2. 0リットルを加えて抽出し、有 機層を飽和重曹水1.0リットル、続いて飽和食塩水 1. 0リットルで洗浄した。有機層を無水硫酸マグネシ ウム上で乾燥した後、減圧下に濃縮して中間体(D-1)の粗生成物529gを淡黄色の油状物として得た。 この粗生成物309gをジクロロメタン1.2リットル に溶かし、水浴で冷却して攪拌した。これにクロルスル ホン酸 5 6. 0 m 1 (0.816mol)を 2 0 分間で滴下し、水 冷したまま40分間、さらに室温で40分間攪拌した。 この反応混合物にアセトニトリル250mlを加え、さ らにDMAC500mlをゆっくり加え、40℃で攪拌 した。オキシ塩化リン108m1(1.17mol)を20分間 で滴下し、さらに40~45℃で1時間攪拌した。減圧 下にジクロロメタンを留去し、残査を氷水2. 0リット ルに注ぎ、ヘキサン1.0リットルと酢酸エチル500 mlを加えて抽出した。有機層を水1.5リットル、さ らに飽和食塩水1.5リットルで洗浄後、無水硫酸マグ ネシウム上で乾燥した。減圧下に濃縮後、シリカゲルカ ラムクロマトグラフィー (溶離液: ヘキサン/酢酸エチ ルの混合溶媒)で精製し、中間体(D-2)277g (収率84.8%)を微黄色の油状物として得た。

【0064】中間体(D-5)の合成

水40m1及びエタノール110mlの混合液に水酸化 ナトリウム20.0g(0.500mol)を加え、50℃で攪拌 した。これに、中間体 (D-2) 55. 9g(0.100mol) を20分間で滴下し、さらに30分間加熱還流した。冷 却後、濃塩酸52ml、酢酸エチル400ml及び水4 00mlを加えて抽出し、1N塩酸500mlで洗浄し た。有機層を無水硫酸マグネシウム上で乾燥した後、減 圧下に濃縮し、中間体 (D-3) の粗生成物 63.5g を微黄色の油状物として得た。このうちの46.0gを アセトニトリル130ml及びDMAC65mlととも に室温で攪拌した。これにオキシ塩化リン26.7m1 (0.290mol)を30分間で滴下し、室温で30分間、さら に50~60℃で30分間攪拌した。冷却後、ヘキサン 150mlで2回抽出し、ヘキサン層を減圧下に濃縮し て、中間体(D-4)の粗生成物 4 4 . 6 g を淡黄褐色 の油状物として得た。エタノールアミン1. 47g(24. 1mmol)、重曹6.05g(72mmol)、水150ml及び酢 酸エチル70mlの混合物を水浴で冷却して攪拌した。 これに先に合成した中間体 (D-4) の粗生成物14. 9gを酢酸エチル15m1で希釈した溶液を15分間で 滴下し、さらに30分間攪拌した。分液し、有機層を飽 和食塩水100mlで洗浄した後、無水硫酸マグネシウ ム上で乾燥した。減圧下に濃縮後、残査をシリカゲルカ ラムクロマトグラフィー (溶離液:ヘキサン/酢酸エチ ルの混合溶媒) で精製し、中間体 (D-5) 10.8g (収率78%)を微黄色の油状物として得た。

【0065】例示化合物M-19の合成

中間体 (C-6) 4. 2 g (16.4mmol)をDMAC15m 1に溶かし、室温で攪拌した。これに中間体 (D-5) 10.8g(18.8mmol)を少量の酢酸エチルに溶解して加 え、さらにピリジン1. 52ml(18.8mmol)を加えて、 1時間攪拌した。一夜放置後、酢酸エチル60m1と水 80mlを加えて抽出し、有機層を飽和食塩水60ml で洗浄した。この有機層にN-クロロこはく酸イミド 2.03g(15.2mmol)を加えて室温で30分間攪拌し た。これに水80m1を加えて抽出し、有機層を飽和食 塩水70mlで洗浄後、無水硫酸マグネシウム上で乾燥 した。減圧下に濃縮後、残査をシリカゲルカラムクロマ トグラフィー (溶離液:ヘキサン/酢酸エチルの混合溶 媒)で精製し、9.4g(収率69%)の例示化合物M -19を無色の水飴状物として得た。精製物の構造は¹ H NMRスペクトル及びFABマススペクトルにより 確認した。

【0066】本発明のカラー写真感光材料に用いることができる技術及び無機・有機素材については、欧州特許第436,938A2号の下記の箇所及び下記に引用の特許に記載されている。

[0067]

1. 層構成 : 第146頁34行目~第147頁25行目

2. ハロゲン化銀乳剤:第147頁26行目~第148頁12行目

3. イエローカプラー: 第137頁35行目~第146頁33行目、第149頁

21行目~23行目

4. マゼンタカプラー: 第149頁24行目~28行目; 欧州特許第421,4

53A1号の第3頁5行目~第25頁55行目

5. シアンカプラー : 第149頁29行目~33行目; 欧州特許第432, 8

04A2号の第3頁28行目~第40頁2行目

6. ポリマーカプラー: 第149頁34行目~38行目; 欧州特許第435, 3

34A2号の第113頁39行目~第123頁37行目

7. カラードカプラー: 第53頁42行目~第137頁34行目、第149頁3

9行目~45行目

8. その他の機能性力:第7頁1行目~第53頁41行目、第149頁46行目

プラー ~第150頁3行目;欧州特許第435,334A2号

の第3頁1行目~第29頁50行目

9. 防腐・防黴剤 : 第150頁25行目~28行目

10. ホルマリンスカベ: 第149頁15行目~17行目

ンジャー

11. その他の添加剤 : 第153頁38行目~47行目; 欧州特許第421, 4

53A1号の第75頁21行目~第84頁56行目、第

27頁40行目~第37頁40行目

12. 分散方法 : 第150頁4行目~24行目

13. 支持体 :第150頁32行目~34行目

14. 膜厚・膜物性 :第150頁35行目~49行目

15. 発色現像工程 : 第150頁50行目~第151頁47行目 16. 脱銀工程 : 第151頁48行目~第152頁53行目

17. 自動現像機 : 第152頁54行目~第153頁2行目

18. 水洗・安定工程 : 第153頁3行目~37行目

 【0068】
 化合物Cpd-K
 3.0mg

 【実施例】
 高沸点有機溶媒Oil-3
 0.10g

 実施例1
 染料D-4
 0.80mg

以下、本発明を実施例によって具体的に説明するがこれ に限定されるものではない。

試料101の作製

化合物Cpd-J

下塗りを施した厚み 127μの三酢酸セルロースフィルム 支持体上に、下記の組成の各層より成る多層カラー感光 材料を作製し、試料101とした。数字はm²当りの添加 量を表わす。なお添加した化合物の効果は記載した用途 に限らない。

【0069】第1層:ハレーション防止層

黒色コロイド銀	0.20 g
ゼラチン	1.90 g
紫外線吸収剤U-1	0.10 g
紫外線吸収剤U-3	0.040 g
紫外線吸収剤U-4	0. 10 g
高沸点有機溶媒Oil-1	0. 10 g
染料E-1の微結晶固体分散物	0. 10 g
【0070】第2層:中間層	
ゼラチン	0. 40 g
化合物Cpd-C	5. 0m g

采れたり 4 【0071】第3層:中間層

表面及び内部をかぶらせた微粒子沃臭化銀乳剤(平均粒 径0.06μm、変動係数18%、AgI含量1モル%)銀量 0.050g

黄色コロイド銀銀量0.030 gゼラチン0.40 g

【0072】第4層:低感度赤感性乳剤層

乳剤A	量	0.30 g
乳剤B	銀量	0. 20 g
ゼラチン		0.80 g
カプラーCC-1		0.15 g
カプラーCC-2		0.050 g
カプラーCC-3		0.050 g
カプラーCC-4		0.050 g
化合物Cpd-C		5. Om g
化合物Cpd-J		5.0mg
高沸点有機溶媒Oil-2		0. 10 g
添加物P-1		0. 10 g

【0073】第5層:中感度赤感性乳剤層

乳剤B 銀量 0.20g

5. 0m g

乳剤C	銀量 0.30 g	化合物Cpd-B	0. 015 g
ゼラチン	0.80 g	化合物Cpd-D	0. 020 g
カプラーCC-1	0. 20 g	化合物Cpd-E	0. 020 g
カプラーCC-2	0.050 g	化合物Cpd-F	0.050 g
カプラーCC-3	0, 20 g	化合物Cpd-L	0.050 g
高沸点有機溶媒O i l ー	0. 10 g	高沸点有機溶媒Oil-2	0.016 g
添加物 P - 1	0. 10 g	【0079】第11層:高原	或度緑感性乳剤層
【0074】第6層:高原	《度赤感性乳剂層	乳剤I	銀量 0.50 g
乳剤D	銀量 0.40 g	ゼラチン	1. 00 g
ゼラチン	1. 10 g	カプラーMC-1	0. 25 g
カプラーCC-1	0.30 g	化合物Cpd-B	0. 030 g
カプラーCC-2	0.10 g	化合物Cpd-E	0. 020 g
カプラーCC-3	0.70 g	化合物Cpd-F	0. 040 g
添加物 P-1	0.10 g	化合物Cpd-K	5.0mg
【0075】第7層:中間	引層	化合物Cpd-L	0. 020 g
ゼラチン	0.60 g	高沸点有機溶媒Oil-1	0. 020 g
添加物M-1	0. 30 g	高沸点有機溶媒Oil-2	0. 020 g
混色防止剤Cpd-I	2.6m g	【0080】第12層:中間	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
染料D-5	0. 020 g	ゼラチン	0. 60 g
染料D-6	0. 010 g	化合物Cpd-L	0. 050 g
化合物Cpd-J	5. Om g	高沸点有機溶媒O i 1 - 1	0. 050 g
高沸点有機溶媒Oil-		【0081】第13層:イニ	- エローフィルター層
【0076】第8層:中		黄色コロイド銀	銀量 0.070g
	と沃臭化銀乳剤(平均粒径0.06	ゼラチン	1. 10 g
	g 1 含量 0.3モル%) 銀量	混色防止剤Cpd-A	0. 010 g
0. 020 g		化合物Cpd-L	0. 010 g
黄色コロイド銀	銀量 0.020 g	高沸点有機溶媒Oil-1	0. 010 g
ゼラチン	1.00 g	染料E-2の微結晶固体分析	_
添加物 P-1	0. 20 g	【0082】第14層:中間	
混色防止剤Cpd-A	0. 10 g	ゼラチン	0.60 g
化合物Cpd-C	0. 10 g	【0083】第15層:低原	_
【0077】第9層:低原		乳剤」	銀量 0.20g
乳剤E	銀量 0.10 g	乳剤K	銀量 0.30 g
乳剤F	銀量 0.20 g	ゼラチン	0.80 g
乳剤G	銀量 0.20 g	カプラーC-5	0. 20 g
ゼラチン	0. 50 g	カプラーC - 6	0. 10 g
カプラーMC-1	0. 25 g	カプラーC-10	0. 40 g
化合物Cpd-B	0. 010 g	【0084】第16層:中原	
化合物Cpd一D	0. 020 g	乳剤L	銀量 0.30 g
化合物Cpd-E	0. 020 g	乳剤M	銀量 0.30 g
化合物Cpd一F	0. 040 g	ゼラチン	0. 90
化合物Cpd-J	10 mg	カプラーC-5	0. 10 g
化合物Cpd-L	0. 020 g	カプラーC-6	0. 10 g
高沸点有機溶媒Oil-	· ·	カプラーC-10	0. 60 g
高沸点有機溶媒Oil-		【0085】第17層:高原	`
【0078】第10層:	_	乳剤N	銀量 0.20g
乳剤G	日然及解源性孔別層 銀量 0.30 g	孔刷N 乳剤O	銀量 0.20 g
			_
	648.日本 0 10 ~	ヤラチン	
乳剤H ゼラチン	銀 量 0.10 g 0.60 g	ゼラチン カプラーC-5	1. 20 g 0. 10 g

,

カプラーC-10	0. 60 g	ゼラチン	0. 40 g
高沸点有機溶媒O i 1 – 2	0. 10 g	ポリメチルメタクリレート (4	
【0086】第18層:第1保護	層	メチルメタクリレートとアクリ	
ゼラチン	0.70 g	「平均粒径1.5 μ)	
紫外線吸収剤U-1	0. 20 g		0. 10 g
紫外線吸収剤U-2	0. 20 g	シリコーンオイル	0. 030 g
紫外線吸収剤U-5	•	界面活性剤W-1	3. 0m g
	0. 30 g	界面活性剤W-2	0.030 g
ホルマリンスカベンジャー		【0089】また、すべての乳	L剤層には上記組成物の他
Cpd-H	0. 40 g	に添加剤F-1~F-8を添加	
染料D-1	0. 15 g	記組成物の他にゼラチン硬化剤	
染料D-2	0.050 g	用界面活性剤W-3、W-4、	
染料D-3	0. 10 g	た。更に防腐、防黴剤としてフ	
【0087】第19層:第2保護			
コロイド銀 銀		ズイソチアゾリンー3ーオン、	
微粒子沃臭化銀乳剤(平均粒径0.		ル、フェネチルアルコール、p	- 安息香酸ブチルエステ
	00μm、Aglia <u>I</u> l	ルを添加した。	
· ·		[0090]	
ゼラチン	0. 40 g	【表 1 】	
【0088】第20層:第3保護	晉		

表1

試料101に用いた沃臭化銀乳剤は以下のとおりである。

乳弃	1名 粒子の特徴	球相当 平均粒径 (μn)	変動係数 (%)	AgI含率 (%)
A	単分散 1 4 面体粒子	0. 28	1 6	4. 0
В	単分散立方体内部潜像型粒子	0.30	10	4. 0
С	单分散立方体粒子	0.38	10	5. 0
D	単分散平板状粒子,	0.68	8	2. 0
	平均アスペクト比3.0			
Е	単分散立方体粒子	0.20	1 7	4.0
F	単分散14面体粒子	0.25	16	4. 0
G	単分散立方体内部潜像型粒子	0.40	1 1	4. 0
H	单分散立方体粒子	0.50	9	3. 5
I	单分散平板状粒子,	0.80	10	2. 0
	平均アスペクト比5. 0			
J	単分散立方体粒子	0.30	18	4. 0
K	単分散14面体粒子,	0.45	17	4. 0
L	单分散平板状粒子,	0.55	10.	2. 0
	平均アスペクト比5.0			•
M	单分散平板状粒子,	0.70	1 3	2. 0
	平均アスペクト比8.0			
N	単分散平板状粒子,	1.00	1 0	1. 5
	平均アスペクト比6. 0			1. 0
0	单分散平板状粒子。	1. 20	1 5	1. 5
	平均アスペクト比9. 0			

【0091】 【表2】

乳剤A~Iの分光増感

乳剂名	添加した増感色素	ハロゲン 化銀 l mo l 当たりの添加量(g)
A	S – 2	0.025
	S – 3	0.25
	S – 8	0.010
В	S - 1	0.010
	S – 3	0.25
	S - 8	0.010
С	S-1	0.010
	S - 2	0.010
	S - 3	0. 25
	S - 8	0.010
D	S - 2	0.010
	S - 3	0.10
	S ~ 8	0.010
E	S - 4	0.50
	S - 5	0.10
F	S - 4	0.30
	S – 5	0.10
G	S – 4	0.25
	S – 5	0.08
	s - 9	0.05
H	S-4	0.20
	S-5	0.060
	S - 9	0.050
1	S-4	0.30
	S-5	0.070
	S - 9	0.10

【0092】 【表3】

乳剤J~Nの分光増感

乳類名	添加した増整色素	ハロゲン化銀 1 moi 当たりの添加量(g)
J	S - 6 S - 7	0.050 0.20
K	S-6 S-7	0. 05 0. 20
L	S-6 S-7	0. 060 0. 22
М	S-6 S-7	0. 050 0. 17
И	S-6 S-7	0. 040 0. 15
0	s - 6 s - 7	0.060 0.22
【 0093】 【化20】	·	
C C ~ 1	CaHq (t) CaHıı	OH NHCOC 3F 7
C C - 2	CzHs	OH NHCOC sF 7
CC-3	C12H25 O-CHCONH	\sim
CC-4 [0094] [化21]	C1 2H 2 3 CN	\sim

MC-1 (特開昭61-65248号に記載の化合物)

MC-2 (特公平4-3860号に記載の化合物)

MC-3(特公平5-39293号に記載の化合物)

MC-4 (特闘平6-222529号に記載の化合物)

[0095]

MC-5(特開平6-222532号に記載の化合物)

MC-6 (特関平6-43611号に記載の化合物)

【0096】 【化23】

$$CH_3 \qquad CI$$

$$CH_3 \qquad COOC_{12}H_{25}$$

$$O = C \qquad C = O$$

$$C_2H_5O \qquad CH_2 \qquad CH_2$$

YC-2

YC - 3

O i
$$1-3$$
 $0=P$

$$\begin{array}{c|c}
CH_3 & CH_3 \\
CH_2CH_2CHCH_2CCH_3 \\
CH_3
\end{array}$$

Cpd-A

Cpd-B

Cpd-C

$$Cpd-D$$

C p d - E

C p d - F

C p d - H

C p d - J

Cpd-K

Cpd-L

【0100】 【化27】

U - 2

U = 3

U-4

U - 5

$$(C_2H_5)_2NCH = CH - CH = C$$

$$COOC_8H_17$$

$$SO_2$$

s – 1

$$C1 \qquad C_2H_5 \qquad C_2H_5 \qquad C1$$

$$C_2H_5 \qquad (CH_2)_4SO_3 \odot$$

S - 2

C1

$$C_2H_3$$
 C_2H_3
 C_2H_3

S – 3

S-4

$$C1 \qquad \begin{array}{c} C_{2}H_{5} \\ \bigcirc \\ \bigcirc \\ CH_{2})_{3}SO_{3} \\ \bigcirc \\ (CH_{2})_{3}SO_{2}Na \end{array}$$

[0102]

S - 5

C1

$$C_2H_5$$
 C_2H_5
 C_1
 C_1
 C_1
 C_2H_5
 C_2H_5
 C_1
 C_1
 C_1
 C_1
 C_2H_5
 C_1
 C_1
 C_1
 C_1
 C_2H_5
 C_1
 C_1
 C_1
 C_2H_5
 C_2H_5
 C_1
 C_1
 C_2H_5
 C_1
 C_1
 C_2H_1
 C_1
 C_1

S - 6

S-7

S-8

[0103]

$$S-9$$

$$\begin{array}{c|c}
C_2H_5 \\
\hline
C_1 \\
CH_2)_2SO_3 & (CH_2)_3SO_3H \cdot N(C_2H_5)_3
\end{array}$$

D-1

D - 2

D-3

[0104]

D - 4

D-5

D - 6

[0105]

E-1

E-2

H-1

$$\begin{array}{c} \text{CH}_2 = \text{CH} - \text{SO}_2 - \text{CH}_2 - \text{CONH} - \text{CH}_2 \\ \\ \text{CH}_2 = \text{CH} - \text{SO}_2 - \text{CH}_2 - \text{CONH} - \text{CH}_2 \end{array}$$

W-1

C₈F₁₇SO₂NHCH₂CH₂CH₂OCH₂CH₂CH₂
$$\stackrel{\bigodot}{N}$$
(CH₃)₃
CH₃ $\stackrel{\bigcirc}{\longrightarrow}$ SO₃ $\stackrel{\bigcirc}{\circ}$ [1 $\stackrel{\bigcirc}{L}$ 33]

[0106]

W-2

W - 3

CaFi7SOzNCH2COOK

CH2COOCH2CH(C2H5)C4H9 NaO3S-CHCOOCH2CH(C2H5)C4H9

W-4

w-5

P-1

M-1

$$\frac{-\left(-CH_{2}-CH_{-}\right)_{n}}{CONHC_{4}H_{9}(t)} \qquad \frac{-\left(-CH_{2}-CH_{-}\right)_{n}}{COOC_{4}H_{9}}$$

F-1

[0107]

【化34】

$$F-2$$

F-3

F-4

F-5

F-6

OH OH

F-7

F-8

ON SH

【0108】第9層、第10層、第11層のカプラーを表4に示す通りに変更した以外は同様にして試料102から116を作成した。カプラーは101のMC-1と等モル量になるよう塗布した。

[0109]

【表4】

【0110】試料101か5116を4800Kの白色 光でウェッジ酵光したのち、以下の現像処理を施し、最 大濃度部のマゼンタ濃度を測定した。結果を表5に示 す。表5より本発明のカプラーは発色性が高いことが明 白である。

【0111】 【表5】 表 5

試 料	最大濃度(マゼンタ)	備考
101	2. 48	比較例
102	2.63	比較例
103	2. 71	比較例
104	2. 26	比較例
105	2.56	比較例
106	2. 51	比較例
107	3. 31	本発明
108	3. 26	本発明
109	3.18	本発明
110	3. 29	本発明
111	3. 16	本発明
112	3.07	本発明
113	3. 32	本発明
114	3. 20	本発明
115	3. 24	本発明
116	3. 41	本発明

【0112】また現像処理後の試料101から116に UVフィルターを使用して1週間キセノン光照射(85,000ルクス、温度30℃、湿度60%)したのちマゼンタ濃度(D_2)を測定し、光照射前のマゼンタ濃度(D_1)と比較した。測定点は光照射前の試料の最大濃度部を用いた。結果を表6に示す。表6より本発明のカプラーからなるマゼンタ色素は光堅牢性に優れていることが判る。これは予期できない驚くべき効果である。

[0113]

【表6】

試料	光堅牢性 D 2 / D 1 (%)	備考
101	5 7	比較例
102	5 9	比較例
103	6 1	比較例
104	7 3	比較例
105	6 2	比較例
106	7 0	比較例
107	77	本発明
108	8 6	本発明
109	8 0	本発明
110	7 8	本発明
111	7 5	本発明
112	7 7	本発明
113	8 3	本発明
114	8 7	本発明
115	8 0	本発明
116	7 6	本発明
		時間 温度

タンク容量 補充量 処理工程 時間 温度 第一現像 6分 38℃ 12リットル 2200ミリリットル/m² 第一水洗 2分 $38^{\circ}\!\!\mathrm{C}$ 4リットル 7500ミリリットル/m² 反 転 2分 38℃ 4リットル 1100ミリリットル/ m^2 発色現像 6分 38℃ 12リットル 2200ミリリットル/m² 前漂白 2分 4リットル 1100ミリリットル/m² 白 6分 38° C 12リットル 220ミリリットル/m² 着 定 4分 38℃ 8リットル 1100ミリリットル/m² 第二水洗 4分 7500ミリリットル/m² 38℃ 8リットル 最終リンス 1分 25℃ 2リットル 1100ミリリットル/m²

【0115】各処理液の組成は以下の通りであった。

[第一現像液]	〔タンク液〕	〔補充液〕
ニトリローN, N, N-トリメチレンホスホン酸		
・5 ナトリウム塩	1.5 g	1.5 g
ジエチレントリアミン五酢酸・5 ナトリウム塩	2.0 g	2.0g
亜硫酸ナトリウム	30 g	30 g
ハイドロキノン・モノスルホン酸カリウム	20 g	20 g
炭酸カリウム	15 g	20 g
重炭酸ナトリウム	12 g	15 g
1-フェニルー4-メチルー4-ヒドロキシメチ	ル	
-3-ピラゾリドン	1.5 g	2.0g
臭化カリウム	2.5 g	1.4g
チオシアン酸カリウム	1.2 g	1.2 g
ヨウ化カリウム	2. 0mg	_

```
ジエチレングリコール
                                                                                                                                                                                                                       13 g
                                                                                                                                                                                                                                                              15 g
                                                                                                                                                                                 1000ミリリットル 1000ミリリットル
                                                                水を加えて
                                                                      pН
                                                                                                                                                                                                                9.60
                                                                                                                                                                                                                                                            9.60
pHは硫酸又は水酸化カリウムで調整した。
                                                                                                                                                                                   [0116]
                                                                                                                                                                                                              [タンク液]
                                                             〔反転液〕
                                                                                                                                                                                                                                                                [補充液]
                                                                ニトリロ-N, N, N-トリメチレンホスホン酸
                                                                                                                                                                                                                                                             タンク液に
                                                                                                                                                                                                                                                            に同じ
                                                                        ・5ナトリウム塩
                                                                                                                                                                                                                    3.0g
                                                                塩化第一スズ・2水塩
                                                                                                                                                                                                                   1.0\,\mathrm{g}
                                                                 pーアミノフェノール
                                                                                                                                                                                                                    0.1g
                                                                水酸化ナトリウム
                                                                                                                                                                                                                         8 g
                                                                氷酢酸
                                                                                                                                                                                                                      15ミリリットル
                                                                水を加えて
                                                                                                                                                                                                                 1000ミリリットル
                                                                       pН
                                                                                                                                                                                                                 6.00
pHは酢酸又は水酸化ナトリウムで調整した。
                                                                                                                                                                                  [0117]
                                                             [発色現像液]
                                                                                                                                                                                                              [タンク液]
                                                                                                                                                                                                                                                                 [補充液]
                                                                ニトリローN, N, N-トリメチレンホスホン酸
                                                                        ・5ナトリウム塩
                                                                                                                                                                                                                                                                2.0g
                                                                                                                                                                                                                    2.0g
                                                                亜硫酸ナトリウム
                                                                                                                                                                                                                    7.0g
                                                                                                                                                                                                                                                                7.0g
                                                                リン酸3ナトリウム・12水塩
                                                                                                                                                                                                                       36 g
                                                                                                                                                                                                                                                                   36 g
                                                                臭化カリウム
                                                                                                                                                                                                                    1.0g
                                                                ヨウ化カリウム
                                                                                                                                                                                                                      90mg
                                                               水酸化ナトリウム
                                                                                                                                                                                                                    3.0g
                                                                                                                                                                                                                                                                3.0g
                                                                シトラジン酸
                                                                                                                                                                                                                    1.5 g
                                                                                                                                                                                                                                                                1.5 g
                                                                N-x+v-N-(\beta-y+\beta)
                                                                     エチル) -3-メチル-4-アミノアニリン
                                                                       ・3/2硫酸・1水塩
                                                                                                                                                                                                                      11 g
                                                                                                                                                                                                                                                                  11 g
                                                                 3, 6 - \emptyset + \mathcal{F} + \mathcal{F
                                                                                                                                                                                                                   1.0\,\mathrm{g}
                                                                                                                                                                                 1000ミリリットル 1000ミリリットル
                                                                水を加えて
                                                                       pН
                                                                                                                                                                                                             11.80
                                                                                                                                                                                                                                                         12.00
pHは硫酸又は水酸化カリウムで調整した。
                                                                                                                                                                                   [0118]
                                                             [前漂白]
                                                                                                                                                                                                              [タンク液]
                                                                                                                                                                                                                                                                 〔補充液〕
                                                                エチレンジアミン4酢酸・2ナトリウム塩・
                                                                       2水塩
                                                                                                                                                                                                                                                                8.0g
                                                                                                                                                                                                                    8.0g
                                                                亜硫酸ナトリウム
                                                                                                                                                                                                                    6.0g
                                                                                                                                                                                                                                                                8.0g
                                                                 1-チオグリセロール
                                                                                                                                                                                                                    0.4g
                                                                                                                                                                                                                                                                0.4g
                                                                ホルムアルデヒド重亜硫酸ナトリウム付加物
                                                                                                                                                                                                                       30 g
                                                                                                                                                                                                                                                                   35 g
                                                                水を加えて
                                                                                                                                                                                 1000ミリリットル 1000ミリリットル
                                                                                                                                                                                                                 6.30
                                                                       pН
                                                                                                                                                                                                                                                            6. 10
p Hは酢酸又は水酸化ナトリウムで調整した。
                                                                                                                                                                                   [0119]
                                                                                                                                                                                                              [タンク液]
                                                             〔漂白液〕
                                                                                                                                                                                                                                                                [補充液]
                                                                エチレンジアミン4酢酸・2ナトリウム塩・
                                                                                                                                                                                                                    2.0g
                                                                                                                                                                                                                                                                4.0g
                                                                エチレンジアミン4酢酸・Fe(III)・アンモニウム
                                                                       ・2 水塩
                                                                                                                                                                                                                    120 g
                                                                                                                                                                                                                                                                240 g
                                                                臭化カリウム
                                                                                                                                                                                                                    100 g
                                                                                                                                                                                                                                                                200\,\mathrm{g}
                                                                硝酸アンモニウム
                                                                                                                                                                                                                       10 g
                                                                                                                                                                                                                                                                   20 g
                                                                水を加えて
                                                                                                                                                                                 1000ミリリットル 1000ミリリットル
                                                                       pН
                                                                                                                                                                                                                 5.70
                                                                                                                                                                                                                                                             5. 50
pHは硝酸又は水酸化ナトリウムで調整した。
                                                                                                                                                                                   [0120]
                                                             [定着液]
                                                                                                                                                                                                              [タンク液]
                                                                                                                                                                                                                                                            〔補充液〕
```

チオ硫酸アンモニウム 80 g タンク液に同じ 亜硫酸ナトリウム 5.0g 重亜硫酸ナトリウム 5.0g水を加えて 1000ミリリットル 6.60 рΗ pHは酢酸又はアンモニア水で調整した。 [0121] [安定液] [タンク液] [補充液] 1. 2 ーベンゾイソチアゾリンー3ーオン $0.03\,\mathrm{g}$ $0.02\,g$ ポリオキシエチレン-p-モノノニルフェニルエーテル (平均重合度10) 0.3g0.3gポリマレイン酸 (平均分子量2,000) $0.1\,\mathrm{g}$ $0.15 \, g$

水を加えて 1000ミリリットル 1000ミリリットル

pН

【0122】実施例2

ポリエチレンで両面ラミネートした紙支持体表面に、コ ロナ放電処理を施した後ドデシルベンゼンスルホン酸ナ トリウムを含むゼラチン下塗層を設け、さらに種々の写 真構成層を塗布して、以下に示す層構成の多層カラー印 画紙(試料201)を作製した。塗布液は下記のように して調製した。

第三層塗布液調製

マゼンタカプラー (ExM) 120.0g、色像安定剤 (Cpd-5) 100.0g、色像安定剤(Cpd-6) 10.0gを、色像安定剤(Cpd-7)10.0 g、色像安定剤 (Cpd-8) 80.0g、溶媒 (So 1 v - 3) 500g、及び酢酸エチル360mlに溶解 し、この溶液を10%ドデシルベンゼンスルホン酸ナト リウム60ml及びクエン酸10gを含む16%ゼラチン 水溶液2000gに乳化分散させて乳化分散物Aを調製 した。一方、塩臭化銀乳剤B(立方体、平均粒子サイズ 0. 55 μ m の大サイズ乳剤 B と 0. 39 μ m の小サイ ズ乳剤Bとの1:3混合物(銀モル比)。粒子サイズ分 布の変動係数はそれぞれ0.10と0.08。各サイズ 乳剤とも臭化銀0.8モル%を粒子表面の一部に局在含 有させ、残りが塩化銀であるハロゲン化銀粒子からな る) が調製される。この乳剤には下記に示す緑感性増感 色素D、EおよびFが銀1モル当り大サイズ乳剤Bに対 10^{-4} LTUL, 10^{-4} LTUL, 10^{-5} E ル、2.0×10⁻⁴モル、また小サイズ乳剤Bに対して は、それぞれ3. 6×10^{-4} 、7. 0×10^{-5} モル、 2. 8×10^{-4} モル添加されている。また、この乳剤の 化学熟成は硫黄増感と金増感が添加して行われた。前記 の乳化分散物Aとこの塩臭化銀乳剤Bとを混合溶解し、 以下に示す組成となるように第三層塗布液を調製した。 【0123】第三層以外の第一層から第七層用の塗布液 も第三層塗布液と同様の方法で調製した。各層のゼラチ ン硬化剤としては1-オキシ-3,5-ジクロロ-s-トリアジンナトリウム塩を用いた。また、各層にCpd -12、Cpd-13、Cpd-14とCpd-15を それぞれ全量が15. 0 mg/m^2 、60. 0 mg/m^2 、50

 mg/m^2 および10.0 mg/m^2 となるように添加した。各 感光性乳剤層の塩臭化銀乳剤には下記の分光増感色素を それぞれ用いた。

7.0

青威性乳剂層

7.0

[0124] 【化35】

增感色素A

C1
$$\stackrel{S}{\bigoplus}$$
 CH $\stackrel{S}{\longleftarrow}$ CH $\stackrel{CH_2)_3}{\longleftarrow}$ $\stackrel{(CH_2)_3}{\longleftarrow}$ $\stackrel{(CH_2)_3}{\longleftarrow}$ $\stackrel{S}{\longrightarrow}$ $\stackrel{S}{$

【0125】(ハロゲン化銀1モル当たり、大サイズ乳 剤に対しては各 $\alpha1$. 4×10^{-4} モル、また小サイズ乳 剤に対しては各 $\alpha1$. 7×10^{-4} モル添加した。)

緑感性乳剤層

[0126]

【化36】

增感色素B

C1
$$\hookrightarrow$$
 CH \hookrightarrow C1 \hookrightarrow C

增感色素C

Br
$$CH = S$$
 $(CH_2)_4$
 $(CH_2)_4$
 $(CH_2)_4$
 $SO_3 = SO_3 H \cdot N(C_2H_5)_3$

增感色素 D

$$\begin{array}{c|c}
C_z H_5 \\
C_{CH_2} C_$$

增感色素E

$$\begin{array}{c|c}
0\\
\text{CH}_{2})_{4}\\
\text{SO}_{3} & \text{CH}_{2})_{4}\\
\text{SO}_{3} & \text{SO}_{3} \text{H} \cdot \text{N}(\text{C}_{2}\text{H}_{5})_{2}
\end{array}$$

增感色素F

$$Br \xrightarrow{C_2H_5} CH = C - CH \xrightarrow{C_2H_5} CH_2)_4 Br$$

$$SO_3 \oplus SO_3 H \cdot N(C_2H_5)_3$$

【0127】(増感色素Dをハロゲン化銀1モル当たり、大サイズ乳剤に対しては 3.0×10^{-4} モル、小サイズ乳剤に対しては 3.6×10^{-4} モル、また増感色素Eをハロゲン化銀1モル当たり、大サイズ乳剤に対しては 4.0×10^{-5} モル、小サイズ乳剤に対しては 7.0×10^{-5} モル、また増感色素Eをハロゲン化銀E1モル当

たり、大サイズ乳剤に対しては 2.0×10^{-4} モル、また小サイズ乳剤に対しては 2.8×10^{-4} モル添加した。)

赤感性乳剤層

[0128]

【化37】

增感色素G

$$\begin{array}{c|c} CH_3 & CH_3 \\ \hline \\ CH_3 & CH_3 \\ \hline \\ C_2H_5 & I \\ \hline \\ C_5H_{11} \\ \hline \end{array}$$

增感色素H

【0129】ハロゲン化銀1モル当たり、大サイズ乳剤 に対しては各 $\phi5$. 0×10^{-5} モル、また小サイズ乳剤 に対しては8. 0×10^{-5} モル添加した。)

【0130】更に、下記の化合物をハロゲン化銀1モル

当たり 2. 6×10⁻³モル添加した。 【0131】

【化38】

【0132】また青感性乳剤層、緑感性乳剤層、赤感性乳剤層に対し、1-(5-メチルウレイドフェニル)-5-メルカプトテトラゾールをそれぞれハロゲン化銀1モル当たり 3.3×10^{-4} モル、 1.0×10^{-3} モル、 5.9×10^{-4} モル添加した。さらに、第二層、第4層、第六層および第七層にもそれぞれ $0.2\,\mathrm{mg/m^2}$ 、 $0.2\,\mathrm{mg/m^2}$ 、 $0.6\,\mathrm{mg/m^2}$ 、 $0.1\,\mathrm{mg/m^2}$ となるよう添加した。また、青感性乳剤層と緑感性乳剤層に対し、

4-ヒドロキシー6-2xチルー1, 3, 3a, 7-テト ラザインデンをそれぞれハロゲン化銀1モル当たり、 1×10^{-4} モルと 2×10^{-4} モル添加した。また、イラジエーション防止のために、乳剤層に下記の染料(カッコ内は塗布量を表す)を添加した。

[0133]

【化39】

および

【0134】(層構成)以下に各層の組成を示す。数字 は塗布量(g / m²)を表す。ハロゲン化銀乳剤は銀換算 塗布量を表す。 ポリエチレンラミネート紙 [第一層側のポリエチレンに 白色顔料 (TiO_2) と青味染料 (群青) を含む] 【0.1.3.6】

0.09

【0135】支持体

第一層 (青感性乳剤層)

塩臭化銀乳剤(立方体、平均粒子サイズ 0.88 μ mの大サイズ乳剤 A と 0.

70μmの小サイズ乳剤Aの3:7混合物(銀モル比)。

粒子サイズ分布の変動係数は、それぞれ0.08と0.10、各サイズ乳剤とも臭化銀0.3モル%を粒子表面の一部に局在含有させた。粒子内部と臭化銀局在相にヘキサクロロイリジウム(IV)酸カリウムを合わせて0.05 ではたばフェロシアン(ルカリウムを合わせて0.5 であたさせた。)

mg、およびフェロシアン化カリウムを合わせて0.5mg含有させた。) 0.24

ゼラチン	1.33
イエローカプラー(E x Y)	0.61
色像安定剤(C p d – 1)	0.08
色像安定剤(C p d - 2)	0.04
色像安定剤(C p d - 3)	0.08
溶媒(Solv-1)	0.22
第二層 (混色防止層)	
ゼラチン	1.09
混色防止剤 (Cpd-4)	0.11
溶媒(Solv-1)	0.07
溶媒(Solv-2)	0.25
溶媒 (Solv-3)	0.19

[0138]

[0137]

第三層(緑感性乳剤層)

溶媒 (Solv-7)

塩臭化銀乳剤(立方体、平均粒子サイズ0.55μmの大サイズ乳剤Bと、0.39μmの小サイズ乳剤Bとの1:3混合物(Agモル比)。

粒子サイズ分布の変動係数はそれぞれ0.10と0.08、各サイズ乳剤と

	i a di	としよう数ファエの カルロかる
	もAgBr 0、8モル%を、塩化銀を基件	
	有させた)	0. 11
	ゼラチン	1. 19
	マゼンタカプラー(ExM)	0.12
	色像安定剤 (Cpd-5)	0.10
	色像安定剤 (Cpd-6)	0.01
	色像安定剤 (Cpd-7)	0.08
	色像安定剤 (Cpd-8)	0.01
	溶媒(So1v-3)	0.50
[0139]		
	第四層(混色防止層)	
	ゼラチン	0.77
	混色防止剤(Cpd-4)	0.08
	溶媒(Solv-1)	0.05
	溶媒(Solv-2)	0.18
	溶媒(Solv-3)	0.14
	溶媒(Solv-7)	0.06
[0140]		
	第五層(赤感性乳剤層)	
	塩臭化銀乳剤(立方体、平均粒子サイズ0.:	·
	0. 41μmの小サイズ乳剤Cとの1:4½	
	粒子サイズ分布の変動係数はそれぞれ0.(
	もAgBr 0.8モル%を、塩化銀を基件	本とする粒子表面の一部に局在含
	有させた)	0.18
	ゼラチン	0.80
	シアンカプラー(E x C)	0.28
	紫外線吸収剤(UV-3)	0.19
	色像安定剤 (Cpd-1)	0.24
	色像安定剤 (C p d – 6)	0.01
	色像安定剤 (Cpd-8)	0.01
	色像安定剤 (C p d - 9)	0.04
	色像安定剤 (Cpd-10)	0.01
	溶媒(Solv-1)	0.01
_	溶媒(Solv-6)	0.21
[0141]		
	第六層(紫外線吸収層)	
	ゼラチン	0.64
	紫外線吸収剤 (UV-2)	0.39
	色像安定剤(Cpd-7)	0.05
	溶媒 (Solv-8)	0.05
[0142]	# B //H# D	
	第七層(保護層)	0.4
	ゼラチン	. 01
	ポリビニルアルコールのアクリル変性共重合	
	Marik0 == -7	0.04
	流動パラフィン	0.02
[0140]	界面活性剤(Cpd-11)	0.01
[0143]	【化4	E O J

(ExY) イエローカプラー

$$\begin{array}{c|c} CH_3 & C1 \\ CH_3 - C & -CO - CH - CONH - \\ CH_3 & N & NHCOCHO - C_5H_{11}(t) \\ \hline \\ CH_2 & N & OC_2H_5 \\ \hline \\ CH_2 & H & . \end{array}$$

(ExM) マゼンタカプラー

[0144]

(ExC) シアンカプラー

$$C1 \longrightarrow C_5H_{11}(t)$$

$$C_2H_5 \longrightarrow C_5H_{11}(t)$$

$$C_2H_5 \longrightarrow C_5H_{11}(t)$$

بح

との25:75の混合物(モル比)

(Cpd-1) 色像安定剤

$$\begin{array}{c} -(CH_2-CH_{\frac{1}{2}}) \\ | \\ CONHC_4H_9(t) \end{array}$$

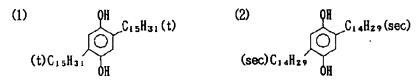
数平均分子量 60,000

(Cpd-2) 色像安定剂

[0145]

(Cpd-3) 色像安定剂

(Cpd-4) 混色防止剤

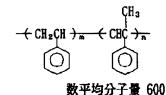


(Cpd-5) 色像安定剂

(Cpd-6) 色像安定剂

[0146]

(Cpd-7) 色像安定剂



n/n=9/1

【化43】

(Cpd-8) 色像安定預

(Cpd-9) 色像安定剂

(Cpd-10) 色像安定剤

(Cpd-11) 界面活性剂

CH₃ C₁₃H₂₇CONH(CH₂)₃ − N − CH₂COO⊖ CH₃

の7:3混合物 (重量比)

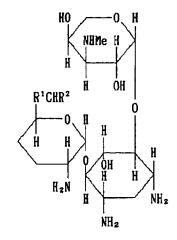
(Cpd-12) 防腐剂

(Cpd-13) 防腐剤

[0147]

【化44】

(Cpd-14) 防腐剤



	R 1	R ²
а	-Me	-NHMe
b	-Me	-NH ₂
С	-H	-NH ₂
đ	-H	-NHMe

a,b,c,d の1:1:1:1 混合物

(Cpd-15) 防腐剤



[0148]

【化45】

(UV-2) 紫外線吸収剤

- (1) C1 OH $C_4H_9(t)$ $C_4H_9(t)$
- (2) OH OH C_BH₁₇(t)
- (3) C1 OH C4H9(t) (CH2) 2C00C8H17
- (4) OH C5H11(t) C5H11(t)
- (5)

 OH

 C₄H₉(sec)

 C₄H₉(t)

(1):(2):(3):(4):(5)の1:2:2:3:1 の混合物(重量比)

(UV-3) 紫外線吸収剂

- C1 OH C4H9(t)
 C4H9(t)
- (2) OH OH CaH17(t)
- (3) OH C5H11(t)
- (4) OH OH Calle (t)

(1):(2):(3):(4)の1:3:2:1 の混合物(重量比)

[0149] [化46]

(Solv-3) 溶媒

$$0 = P \left\{ 0 \right\}^{\text{CH}_3}$$

(Solv-7) 溶媒

【0150】第三層のカプラー(ExM)を表7に示す とおり変更した以外は同様にして試料202から215 を作成した。カプラーは(ExM)と等しいモル数にな るよう塗布した。

[0151]

【表7】

表7

拭料	カプラー	備考
201	MC-1	比較例
202	MC-2	比較例
203	M C - 3	比較例
204	MC-4	比較例
205	MC-6	比較例
206	M – 1	本発明
207	M - 2	本発明
208	M – 4	本発明
209	M – 6	本発明
210	M-12	本発明
2 1 1	M-13	本発明
212	M-14	本発明
2 1 3	M-16	本発明
2 1 4	M-24	本発明
2 1 5	м-27	本発明

(Solv-2) 溶媒

(Solv-6) 溶媒

(Solv-8) 溶媒 COOC 8 H 1 7 (CH₂)₈

Ċ00CeHi₁ 【0152】試料201から215に感光計(富士写真 フイルム株式会社製FWH型、光源の色温度3200 K) を使用して階調露光し、下記の現像処理を施して最 大濃度部のマゼンタ濃度を測定した。また、現像後の試 料を70℃-80%RHの雰囲気で2ヶ月保存し、ステ イン(白地部分のイエロー濃度)の変化を観察した。結 果を表8に示す。本発明のカプラーは比較化合物に対し て高い発色性を有しており、かつ画像の堅牢性に優れて いた。

[0153] 【表8】

表8

	最大濃度部の	白地部分イエロー	
試 料	マゼンタ濃度	濃度変化(ステイン)	債考
2 0 1	1. 67	0.36	比較例
202	1. 75	0.31	比較例
203	1.84	0.32	比較例
2 0 4	1.42	0.29	比較例
2 0 5	1.64	0. 27	比較例
206	2. 21	0.24	本発明
207	2. 01	0.20	本発明
208	2.03	0. 21	本発明
209	2.10	0.23	本発明
210	2. 13	0.24	本発明
2 1 1	2.07	0.24	本発明
2 1 2	2.16	0. 22	本発明
2 1 3	2.18	0.24	本発明
2 1 4	2. 13	0.20	本発明
2 1 5	2.15	0.21 リンス(2)	本発明 3-5

[0154] 処理工程 カラー現像 漂白定着 リンス(1)

•		7 2 7 (2)	3-0-0	3 0 19
温度	時 間	リンス(3)	35℃	30秒
38.5℃	45秒	乾 燥	80℃	60秒
35℃	45秒	【0155】各	処理液の組成は	以下の通りである。
35℃	30秒			
カラー現像液		タン	ク液 補充	液
水		8 0	0 ml 8 0	Oml
エチレンジア	マミン四酢酸	3.	0 g 3.	0 g
4, 5ージヒ	: ドロキシベンゼン	·-1, 3-		
ジスルホン	∕酸2ナトリウム塩	0.	5 g 0.	5 g
トリエタノー	-ルアミン	12.	0 g 1 2.	0 g
塩化カリウム		6.	5 g —	
臭化カリウム	`	0.	0 3 g —	
炭酸カリウム	`	27.	0 g 27.	0 g
蛍光増白剤	(WHITEX 4	、住友化学製) 1.	0 g 3.	0 g
亜硫酸ナトリ	ウム	0.	1 g 0.	1 g
ジナトリウム	-N, N-ビス	(スルホナートエチル)		
ヒドロキシ	ルアミン	5.	0 g 10.	0 g
トリイソプロ	1ピルナフタリン ((β) スルホン酸		
ナトリウム	`	0.	1 g 0.	1 g
N-エチル-	-N-(β-メタン	′スルホンアミドエチル)		
- 3 - メチ	ールー 4 ーアミノア	ニリン・3/2硫酸・		
1水塩		5.	0 g 11.	5 g
水を加えて		1 0 0	0 ml 1 0 0	Oml
рН (25℃	こ/水酸化カリウム	及び硫酸にて) 10.	00 11.	0 0

30秒

[0156]

漂白定着液 タンク液 補充液

水	6 0 0 ml	1 5 0 ml
チオ硫酸アンモニウム(700g/リットル)	9 3 ml	2 3 Oml
亜硫酸アンモニウム	40 g	100g
エチレンジアミン四酢酸鉄(III)アンモニウム	5 5 g	135 g
エチレンジアミン四酢酸	5 g	12.5g
硝酸 (67%)	30 g	6 5 g
水を加えて	1 0 0 0 ml	1 0 0 0 ml
p H (25℃/酢酸及びアンモニア水にて)	5.8	5.6

[0157]

リンス液(タンク液と補充液は同じ)

【発明の効果】本発明によれば、発色性が良好で高い濃

塩素化イソシアヌール酸ナトリウム 0.02g 脱イオン水(導電率5μS/cm以下) 1000ml pH 6.5

[0158]

度の画像を与え、かつ画像の保存安定性にも優れたハロ ゲン化銀カラー写真感光材料が得られる。